

翻刻・京都大学文学部図書館蔵『東福寺清規』（一）

鶴見大学仏教文化研究所所員 尾崎 正善

はじめに

今回翻刻する『東福寺清規』一卷一冊・（慶長年間成立）は、京都大学文学部図書館所蔵（請求番号・京都大学・Ind-ph-Q-37）である。詳しい書誌に関しては後に論ずるが、本清規は表題が示すように東福寺関係の清規で、京都大学文学部図書館所蔵の無著道忠（一六五三～一七四四）関連の史料の一つである。

東福寺関係の清規史料としては、本清規の外に

- 一、内閣文庫（国立公文書館）所蔵『慧日山東福禅寺行令規法』文保二年（一三二八）頃成立
- 二、東福寺霊雲院所蔵典籍三六『日用軌範鈔』（東大史料編纂所 6114-10236）
- 三、『東福寺衆雜稿』（東大史料編纂所 2016-398）

が知られるだけで、その特徴や傾向に関して深く研究されているわけではない。

昨年度までの『仏教文化研究所紀要』においては、南禅寺関係の清規史料を紹介してきた。それらの紹介論文の中でもすでに述べたが、南禅寺関係の清規史料に関しては、まとまった数のものが確認されており、その比較検討も行うてきた。

これに対して東福寺関係の清規史料は、『慧日山東福禅寺行令規法』を除いて紹介されることがなかった。今回、

道忠が筆写した本清規を紹介することにより、東福寺の清規・儀礼の特徴が明らかになるだけでなく、南禅寺との相互の関係が新たに見えてくると思われる。

本清規の翻刻紹介により、多角的な禅宗清規研究の一助となることを期待する。

一、表題ならびに形状

最初に、本清規の簡単な書誌を記しておく。

〔東福寺清規〕

外題 東福寺清規（題箋）

内題 慧日山東福禪寺

法量 縦二七・七糎×横一八・七糎

装幀 四ツ目綴

存缺 ナシ

丁数 本文百二十四丁

疑誤・名目（二丁）

東福寺所領目録（五丁）〔以上、六丁は道忠の加筆と思われる〕

奥書 右東福寺清規借雲祥禪院本寫之

元禄十五年歲次壬午仲夏初三日

龍華 道忠識

（一二四ウ）

一巻本で欠損はない。但し、江戸期、無著道忠の書写であるので、その時点で不明の箇所、また誤字・脱字と思われる箇所もある。これに関しては、疑誤・名目の箇所に詳しいのでそちらを確認いただきたい。

二、成立過程

次に『東福寺清規』の成立過程について確認しておこう。なぜ、成立時期とせず過程としたかといえば、本清規は先に述べたように、江戸時代、無著道忠の書写本であり、その時点までに幾たびか手の入っていることが想定されるが、その段階を特定できないからである。

これは、前回紹介した『南禅清規』と同様のケースである。

さて、史料中に記される主な年号を見ると以下のようになる。（記載年号、総てではない）

- ① 応永十五年（一四〇八）（二八オ〜ウ）
- ② 長享二年（一四八八）（七四オ）
- ③ 延徳元年（一四八九）（七四オ）
- ④ 明応七年（一四九八）（七二オ）
- ⑤ 文亀二年（一五〇二）（一二二ウ）
- ⑥ 永正二年（一五〇五）（七一ウ）
- ⑦ 永正十一年（一五一四）（一八ウ）・（二〇二ウ）
- ⑧ 大永二年（一五二二）（七一ウ）
- ⑨ 大永七年（一五二七）（四六ウ）

- ⑩ 文禄三年（一五九四）（一二〇才）
- ⑪ 文禄四年（一五九五）（一一九才）
- ⑫ 慶長三年（一五九八）（二九ウ）・（一一四才）・（一一七ウ）
- ⑬ 慶長四年（一五九九）（七一才）・（一一八ウ）
- ⑭ 慶長五年（一六〇〇）（六三才）・（一一四ウ）
- ⑮ 慶長十年（一六〇五）（三才）・（一九ウ）
- ⑯ 慶長十三年（一六〇八）（一二〇ウ）
- ⑰ 慶長十六年（一六一一）（一二〇ウ）
- ⑱ 元禄十五年（一七〇二）（一二四ウ）

この内、①は、「一 涅槃像者、應永十五戊子、兆殿主五十七歳、六月所畫也、」（二八才ウ）とあるように、本清規が編集された時点で使用されていた、「涅槃図」の由来である。

また、②長享二年（一四八八）から⑦永正十一年（一五二四）にかけての記述は、「一上堂小參ノ問禪、自二正月元旦二至三十二月除夜二差定」・「一秉拂ノ法語ヲ、呈上^{スル}上方^{スル}「事」」・「一上堂小參ノ問禪ヲ、呈上^{スル}上方^{スル}「事」」（六ウ）などの、本清規が編集される以前の差定に関する記録である。

特に③④は、

延徳元 西己年

長享二 申戊^{ニモ}年 如^レ右ノ六頭首アリ （七四才）

とあるように、先例を踏まえるための記載である。

また、⑨大永七年には、

大永七年丁亥、二月十三日、於三川勝寺合戰、戰

死不可數、同三月七日、東福寺一山之衆、於彼

戰場追甲、施食牌云、

時住持、芳卿和尚也、特請永明、蒲心座元、爲維那

というような、歴代の記録も残されている。芳卿は、芳卿光隣（天文五年（一五三六）六月十四日寂）東福寺二百世のことである。

さて、本清規が編集されたのは、その冒頭にある「定」の定められた、慶長十年頃と思われる。そこには、

慶長十_{巳乙}年正月吉辰

西堂令柔〔東福寺二三〇世〕

西堂龍玄〔東福寺三二一世〕

住持守藤

〔東福寺二三三世〕

勝林聖澄

〔東福寺三三二世〕

龍吟龍珊

〔東福寺二三五世〕

三聖光澤

〔東福寺三三八世〕（三才）

（※世代数は、筆者注）

とあるように、当時の歴代住持の名と共に東福寺の掟が定められ、これに続いて本編というべき「當寺年中勤行次第」が始まっている。

慶長十年を重視する理由は、この記述の外、「正月十一日吉書案文」（一九ウ）と「納御寺領米錢之事」（一九ウ）が正月の本文中に書かれることが挙げられる。

それ以前の記録、例えば慶長三年は、

慶長三_{戌戌}年三月十八日

無準和尚三百五十年忌 (二二〇オ)

というように無準師範の遠忌の記録である。

また、慶長五年は、「預_リ申祠堂錢之事」(六三オ)、「預_リ申祥雲院殿_{祠堂料}之事」(六三ウ)という祠堂錢の預かり状態の雛型と、「大慈_ノ開山佛通禪師ノ三百年忌」(二一四ウ)の記録である。

逆に慶長十三年・十六年は本清規末の「納入祖堂料之事」慶長十三年(二二〇ウ)、「萬壽寺ニテ、單寮ニナル時_ノ請取_ノ書様」慶長十六年(二二〇オ)というように、後に付加したものともいえる箇所である。

さらに、本文末尾、道忠の奥書の前には次のようにある。

此節ノ役ヲ勤_{カミ}テ、又勤_ル二次ノ節ノ之役_{キカライ}、却來_ト云フ也、
上_{カミ}ノ參暇、下_{シモ}ノ參暇、兩人共_ニ前堂_{ヲホ}也、然_レ前堂大勢無_キ故_ニ、今_ハ
者上_{カミ}ノ參暇_ハ西堂也、

前堂_ハ者住持ノ次_ニ用_ル也、諸役等ノ六箇敷用共、公事等ヲモ、
批判_{スル}也、

松月軒主月溪聖澄長老之自筆也、 (二二四ウ)

ここには、參暇・前堂首座・住持の役割分担が示される。この文章は、最後に「月溪聖澄長老之自筆也」とあるこ

とから、東福二二世月溪聖澄（慶長元年〈一五九六〉十二月十三日開堂・元和元年〈一六一五〉寂）の自筆のものを参照しており、彼が活躍した時代に編纂されたと考えられる。

以上より、およそ長亨二年（一四八八）から永正十一年、そして大永七年（一五二七）ころまでの東福寺に残る古い時代の各種記録を参照しつつ、慶長三年（一五九八）三月十八日の「無準和尚三百五十年忌」から慶長十年（一六〇五）にかけての時代を中心に東福寺で行われていた年中の行事を編集し、最終的には、慶長十六（一六一一）頃に編集を終えたものと考えられる。

特に後半、一一六丁以降、「侍狀官錢之事」以下は、各種書式で段階的に付加されたと想定される。しかし、これらの項目は目次にも載せられており、また一時に書写したもので原本の筆の違いもわからないため、これらはいくまでも推測である。

それを最終的に、元禄十五年（一七〇二）に無著道忠が筆写させたのであろう。道忠の作業に関しては改めていうまでもないが、南禅寺関係の清規同様その収集過程の作業と思われる。

なお、本清規を道忠が書写したことは、『東福寺誌』九二七頁下に記されており、白石虎月師は本書を確認していたことがわかる。

三、構成

次に、本清規の内容に関してその構成と特徴を述べてみたい。

本清規は、一巻で全体は年中行事を中心に各種法要を記し、その中でも前半部分は正月から開山忌のある十月まで、そして後半（今回、翻刻紹介を行わなかった部分）には各種法要・儀礼の細かな内容・諸注意が記され、最後に各種書類の雛型が記録されている。さらに道忠が、「疑誤・名目」「東福寺所領目録」を付加している。

その大まかな内容に関しては、「當山年中勤行次第」(三才)を参照すれば一目瞭然である。この部分は、目次といふべき箇所、本清規の記述内容全体を記しているが、必ずしも表題と一致しないので注意が必要である。

まず、「當山年中勤行次第」の前には、「十境」と「定」があるのみである。

次に「當山年中勤行次第」のあらましを記すと、

「東班西班牙之位次」(二〇才)・「正月元旦」(一才)・「二月」(二一才)・「三月」(二九才)・「四月」(三一才)・「六月」(四二才)・「七月」(四三才)・「九月」(四七才)・「十月」(四八才)

で、十月の開山忌関係の記述が終わるのが六十九丁目の表までである。つまり十月の記述は、二十丁もの長さに亘る。しかし、十一月、さらに十二月に関しては、「成道」「除夜」等の個別の記述はあるが、特に一ヶ月を通しての記述はない。ここまでは凡そ月毎の諸行事を並べ、それに関連する事項に関して詳細な進退等を記している。

これ以降の記述内容に関しては、項目だけ挙げても煩瑣になるが、特徴的なものを列記するならば、

「禪客評定之事」(七〇才)・「上堂小參」問禪、自正月元旦至十二月除夜「差定」(七〇才)・「榜書様」(七五才)・「秉拂住持ノ諸道具」(七六才)・「五社土地堂念誦」(七八才)・「大坐湯」(七八才)・「小參」(八〇才)・「茶堂茶礼」(八〇才)・「冬節秉拂當日」(八一才)・「草飯」(八四才)・「上堂」(八五才)・「巡堂燒香次第」(九〇才)・「茶礼式」(九一才)・「佛殿祈禱燒香之事」(二〇五才)・「臘八佛成道」(二〇五才)・「歳節」(二〇五才)・「除夜諸行事次第」(二〇七才)・「風呂」(二〇七才)・「坐禪」(二〇九才)・「本寺行事」(二一〇才)・「月中行事次第」(二一〇才)・「永明院開山三百年忌」(二一四才)・「大慈開山三百年忌」(二一四才)

等が記される。詳しくは本清規の該当箇所を参照いただきたいが、僧堂における各種法要の場所や準備、そして詳細な進退等について記されている。

続いて、「侍狀官錢書様」(二一六才)以下は、

「後版官錢書様」「逆修祠堂入牌料書様」「無拂出錢請取書様」「塔婆錢請取書様」

というように、各種書類の書式である、これが百二十四丁目の表まで記される。

そして最後は、道忠の付加であろうか、「疑誤」と「名目」そして「東福寺所領目録」で終わる。

最後の部分はひとまず置くが、本清規は最初にも述べた如く、慶長十年頃の東福寺の年間の行事全般、および各種儀礼・行事の実態を大変詳しく記した清規であるといえよう。

また、その他の清規においては、「回向文」「疏」、各種法要の「差定」等を記す形式のものもあるが、本清規においてはそのような関係の記述は見あたらず、住持・首座・侍者等の進退が詳細に記される形式である。

四、引用・僧名・注について

次に本清規と他の資料との相互関係を見てみよう。

まず、本清規においては先行する清規の直接的な引用は確認できない。つまり、『校定』『備用』『勅規』という中国の清規、および先行する臨済系の諸清規からの引用などはない。特に断りなく引かれる場合もあるが、そうした点も現時点では確認できない。

一部、『慧日山東福禪寺行令規法』と同じ内容が確認できるが、これが東福寺において継続して行われていた行事・進退なのか今後の研究を待ちたい。

一方で、本清規には多くの僧名が記されている。各種書式等の先行する資料を引用する箇所だけでなく、注記の形で幾つかの意見・解釈を引用している。こうした引用は、他の清規にも見られることではあるが、以下のように多くの僧名を記録するのは、本清規の大きな特徴である。次にこうした点を確認してみたい。

まず、記載される僧名の一覧である。

重複するが、冒頭の「定」のである。

西堂令柔（三才）（剛外令柔へ一六二七）・東福寺二三〇世）

西堂龍玄（三才）（圭叔龍玄へ一六二五）・東福寺二三二世）

住持守藤（三才・一一九才）（集雲守藤へ一六二一）・東福寺二三三世）

勝林聖澄（三才）（月溪聖澄へ一六二五）・東福寺二三二世）

龍吟龍珊（三才）（友月龍珊へ一六二五）・東福寺二三二世）

三聖光澤（三才）（天倫光澤へ一六〇九）・東福寺二二八世）

先にも挙げた「聖澄」（月溪聖澄）は、後にもその名が記される（六三才・六三ウ・一一四ウ・一一六才・一一九才・一二〇才・一二四ウ）。このように、彼の活躍した時代の記録、また意見を重要視していることが確認できる。

次に、「坐牌図」・各種書式等に見られる、禪者を列記しておこう。（以下では、法諱と職名の順番を統一した）

温如座元（一二ウ）

不二岐陽（二四ウ・二五才）（岐陽方秀へ一三六一）・東福寺八〇世）

兆殿主（二八才）

瑞雪座元（四〇ウ）（瑞雪光欽？へ一六二四）・東福寺二三一世）

花溪座元（四〇ウ）

涼首座（四〇ウ）

丹首座（四〇ウ）

仙藏主（四〇ウ）

心藏司（四〇ウ）

芳卿（四六ウ）（芳卿光隣へ一五三六・東福寺二〇〇世）

涅槃座元（五二才）

伯沙彌（五二才）

松首座（五二ウ）

英喝食（五二ウ）

賀藏司（五二ウ）

文林（七七ウ・八一ウ・一〇二ウ・一一一ウ）（文林爲郁・『五山禪林宗派図』九〇頁）

令総侍者（二〇一ウ）

昌續侍者（二〇一ウ）

綱宗西堂（二〇二才）（綱宗宗揚へ一五三一・東福寺二〇一世）

允芳西堂（二〇二才）（允芳慧菊へ一五四八）か？・『五山禪林宗派図』八〇頁）

香仲西堂（二〇二才・一一六才・一一七才）（香仲見橘へ一五五四・東福寺二〇八世）

季汾座元（二〇二才）

令雄侍者（二〇二才）

長杉侍者（二〇二才）

汝川（二〇二ウ）（汝川正三か？・『五山禪林宗派図』一四一頁）

光東書記（二〇二ウ）

宗澄首座（二〇四ウ）

壽超首座（二〇四ウ）

竹卿西堂（一二四才）（竹卿慧賢）

仁室西堂（一二四才）

久藏主（一二四才）

宗琛西堂（一二六才・一二七ウ）

光秀西堂（一二六才・一二六ウ・一二七ウ）（蘭甫光秀・東福二一世）

聖琳首座（一二六ウ・一二二ウ）

令松西堂（一二六ウ）（高岳令松へ一五五二・東福寺二〇五世）

守仙西堂（一二六ウ）（彭叔守仙へ一五五五・東福寺二〇七世）

宗登西堂（一二六ウ）（二了宗登・『五山禪林宗派図』一〇三頁）

令從西堂（一二七才）（瑞雲令從へ一五三四・東福寺二〇三世）

令藤塔主（一二七ウ）

光勝侍衣（一二七ウ・一一八才・一一八ウ・一一九ウ）

惠賢西堂（一二七ウ・一一八才・一一八ウ・一一九ウ）

利濟西堂（一二七ウ・一一八才・一一八ウ・一一九ウ）（惟舟永濟へ一六二二・東福寺三二九世）

聖興侍衣（一二〇ウ）

守沆侍衣（一二〇ウ）

義超參暇（一二〇ウ）

永德參暇（一二〇ウ）

瑞雪西堂（一二一才）（瑞雪光欽へ一六二四・東福寺三三一世）

宗春首座（一二一才）

永喜沙彌（一二二ウ）

周瑤首座（一二三才）

夜泊軒光松（一二三才・一二三ウ）（東歸光松へ一五〇三・東福寺一八一世）

聖玉（一二二ウ）

聖琢（一二二ウ）

心源院源浚（一二二ウ・一二三才・一二三ウ）

澄心寺福憲（一二二ウ）

光隣（一二二ウ）（芳卿光隣へ一五三六）東福寺二〇〇世）

擇勝軒利宮（一二二ウ・一二三才・一二三ウ）

妙德奉行光璘（一二三才）

寶勝院光悦（一二三才）（檀叔光悦・『五山禅林宗派図』九一頁）

聖珍都寺（一二三才）

奉行光瓚（一二三ウ・一二四才）（圭甫光瓚・『五山禅林宗派図』九〇頁）

奉行爲都（一二三ウ・一二四才）

光堯（一二三ウ）（仁如光堯・『五山禅林宗派図』九一頁）

以上のように、大変多くの禅者を挙げている。特に「草飯座牌図」や各種書式に見られる名前は、その時代に活躍した、首座・蔵主・塔主、さらに座元・沙弥等の禅者を如実に表したもので、余り例がない。特に座牌図は、その肩書きのみを記すことにより、普遍性を持たせるのが通例である。因みに、冒頭の「東班位次」はじめ二月の「初午役

者坐牌図」「初午懺法坐牌図」、開山忌の「坐牌列盛図」等は、配役名のみである。

さて、こうした中、特に注記として引用される、禪者の箇所を挙げておこう。(傍線、筆者)

【汝川】 汝川正三 『五山禪林宗派図』「聖一派・本成門派」(一四二頁)

- ① 一 汝川ノ云ク、前堂後堂者、以ニ拄杖一爲持物ト、書記以ニ竹篋一爲持物ト、但シ以大慧爲開山一故也、東西藏者、以レ經爲持物ト、(二〇二ウ)

【文林】 文林爲郁 『五山禪林宗派図』「聖一派・三聖門派・愚直下」(九〇頁)

- ① 一 秉拂前日ノ早朝、行事歸リニ
(中略) 故ニ都寺自持ノ榜ヲ、到ニ首座寮ニ也、

右ハ文林和尚ノ冊子ニテ寫レ之、(七七〇ウ)

② 一 粥僧堂文林ノ記錄 聞テ開靜ヲ、前板率ニ下頭首ヲ、到テ僧堂ニ、自ニ前板ニ次第ニ入堂、後堂ハ者直ニ透テ聖龕ノ左邊ニ、

到ニ後堂床ニ、前堂以下ノ者、皆立ニ首座床ノ前ニ、待ニ住持ノ到ニ、住持到レハ、則各問訊ノ著レ座ニ也、(下略)
(八一ウ〜八二オ)

③ 一 文林和尚ノ記錄ニ曰、當寮書記ノ祖師、或曰黃龍、或曰大慧ト、今也觀ニ當寮ニ所掛之頂相ヲ者、實大慧ノ像也、亦何ノ疑ハシ乎、(一〇二ウ)

④ 一 祝聖之時ハ、住持先ニ三尊ニ焼香ハセイデ、問ニ訊ノ兩班ニ、本尊バカリニ焼レ香也、祝聖畢テ、又三尊ニ焼香ノ、サウデ維那學經也、祝聖時ハ消災咒ニモ打レ聲ヲ也、文林ノ記之(一一一ウ)

【宗澄首座・壽超首座】

① 龍眠ノ宗澄首座、前板煖齋ノ報ニ、不レ借ニ出世ノ名ヲ、直ニ書ス宗澄拜請ト、曰ク已ニ於ニ其ノ寮ニ辨レ齋ヲ、而頭首ノ焼香之也、至レテ報ニ獨リ借ニ「出世之名」ヲ、無レシト謂云、於レ義ニ如何、

栗棘ノ壽超首座前板ノ煖齋ニモ、亦自書ニ其名一也、（一〇四オ〜ウ）

【竹卿西堂・仁室西堂・久藏主】

① 永明院ノ開山三百年忌

慶長三^{戊戌}年、三月九日、五日^ニ竹卿西堂、窺^フ諸老ノ隙^ヲ也、六日^ニ仁室西堂、口^ニ報^ニ諸老^ハ廻^ル也、平僧衆、
者、久藏主^{モツ}持^レ報^ラ廻^ル也、四日報也、（一一四オ）

内容に関しては、特に触れないが、「汝川・文林」など特定の禅者の意見、過去の事例を積極的に参照し、その編集時に引用していることがわかる。

これらは、当時の東福寺特有の行事解釈だったのか、今後他寺院での清規・事例との比較において様々な面が明らかになるのではなからうか。

おわりに

以上、本清規の成立時期・内容、そこに記される禅者を取り上げてみた。その特徴に関しては最終的には本史料を参照して頂きたいが、今後の清規研究の一助となることを祈念して本論を閉じることとする。

※最後に、本資料の閲覧及び翻刻を御快諾下さった京都大学文学部図書館に対して一言記して謝意を表したい。

凡例

- 一、京都大学文学部図書館所蔵『東福寺清規』の翻刻である。
但し、紙幅の関係で六九丁十月「開山忌」までの翻刻である。
- 一、本清規は、一卷一二四丁・疑誤・名目一丁・東福寺所領目錄五丁で欠丁はない。
- 一、翻刻にあたっては、改行箇所及び空白に関して全て原本に準じた。
- 一、返り点・ルビに関しては、原本に忠実おこなった。
- 一、字体の相違もできるだけ原本通りとした。
応―應・略―畧・貳―二・礼―禮等。
- しかし、俗字・異体字・略字に関しては全部、あるいは部分的に字体を改めたものもある。
- 一、熟語の場合、豎点（・）で結ぶ記号があるが、煩雑さを避けるため割愛した。
- 一、割注・註記等も、原本に準じた。なお、六二オ・六二ウの頭注は「」で指示した。
- 一、（ ）で示したのが丁数である、数字は冒頭からの通し番号、オは表、ウは裏を示す。

東福寺清規（外題）

慧曰山東福禪寺

開山聖一國師曰圓爾、嗣^二無準^一、駿州人也、塔曰常樂、

十境

妙雲閣 成就宮 潮音堂 千松林 思遠池
洗玉礪 甘露井 選佛場 旃檀林 通天閣

十三塔頭

圓通寺 寶覺禪師^三
聖寺、開山之 正統院 法照禪師

龍吟菴 大明國師 大慈菴 佛通禪師

栗棘菴 佛照禪師 盛光院 佛印禪師

正覺院 佛智禪師 莊嚴藏院 南山和尚

永明院 圓鑑禪師 桂昌菴 雙峯國師

東光寺 大智海禪師 大雄菴 天柱和尚

大織冠鎌足二十一代光明峯寺關白左大臣^ア

藤原道家公之四男賴經^ハ自^二賴朝^一第四代

母^ハ准三后從一位倫子西園寺太政大臣藤原^ノ

（二才）

公經公ノ娘^メ

(二ウ)

定

一 方丈四節交代并常樂交代住持塔主共可爲布衣七條事

一 開山月忌始、無準忌、普門寺祖忌、常樂十五日祖忌七月小施餓鬼浴佛臘八除夜住持塔主頭首維那之外各可爲布衣事

一 二月廿一日檀那忌、住持頭首維那其外老弱可爲布衣事

一 年中旦望開山月忌、宿忌半齋并三日祈禱、住持頭首維那可爲布衣事

一 住持内報可爲布衣、但頭首維那内報如先規可爲^二道員^一事

一 維那祝齋住持諸老大衆維那各可爲布衣掛絡事

一 兩檀那御誕生祈禱、可爲布衣事

一 疏銘被^レ取時、住持維那共可爲布衣事

一 十一月廿四日天台大師忌、住持維那可爲布衣事

一 十二月十三日修正評定、各可爲布衣事
右條々以^二衆評^一攸^レ定如^レ斯

(二ウ)

(二オ)

慶長十_巳年正月吉辰

西堂令柔
西堂龍玄

住持守藤

勝林聖澄

龍吟龍珊

三聖光澤

當寺年中勤行次第

一 東班西班之位次

一 正月元旦、諸堂行事次第

二 二日大工之事始 三日孝明寺諷經

四 四日於方丈點心、住持營_レ之 五日懺法滿散

遷寮內報 維那內報 六日風呂

七日修正滿散 八日諸兩班官代

秉拂遷寮式 三八念誦

二月

一 初午懺法規式、付役者坐牌

一 殿裡立班之圖、并行導次第

一 點供規式 付_二上_一岐陽和尚式 一列拜圖

一 佛涅槃 付涅槃之畫像、兆殿主筆、年号有之

一 前資行導并坐牌之事

（三才）

（三ウ）

一 廿一日光明峰寺殿年忌

三月

一 十八日無準忌

一 禪客評定 三月廿八日之比、以客頭・癩・諸老之隙、
○四月一日指し之、見于冬節之處^三。

四月

一 八日佛誕生 一殿裡立班之圖 見于前

一 十三日啓建 午時衆寮諷經

一 十四日早晨小諷經 石塔諷經 戒臘牌 楞

嚴會 榜礼 晚間佛殿燒香三拜 見于冬節

土地堂念誦 大坐湯 常樂諷經 小參 目

子之書樣有 茶堂湯禮 法堂習

一 十五日粥僧堂 祝聖 土地堂 祖師堂 祠

堂 茶堂茶禮 常樂諷經 同祠堂 榜礼

草飯 上堂 節礼 庫司礼 巡堂 楞嚴會

日中 茶礼 借法座 杖拂 湯礼 丈室

礼 侍香寮礼 塔頭習 藥 秉拂 茶堂湯

礼

一 十六日謝上堂 自頭首呈上之謝語之紙於上方、
事見于冬節之處^一。

六月

(四才)

(四ウ)

一 日打扇^ハ者自^ニ半夏^ニ行^レ之 淋汗ノ風呂

十八日妙雲閣懺法

七月

一 七夕就^ニ方丈^ニ冷麵儀式、并報、一看經榜

一 十三日楞嚴會滿散 晚間 衆寮諷經

一 十四日早晨、僧堂下間、掛點湯牌、晚間掛念誦

與小參牌 都寺往^ニ方丈^ト與^ニ首座寮^一、有^ニ榜禮^一、土

地堂念誦 大坐湯 常樂諷經 小施

餓鬼 小參 茶堂茶禮

一 十五日 粥僧堂 祝聖 土地諷經 祖堂諷

經 法堂 祠堂諷經 茶堂茶禮 常樂諷經

光明峯寺殿諷經 侍客往首座寮、有榜礼、齋

了上堂 節礼 庫司礼 巡堂 日中 僧堂

茶礼 晚間大施餓鬼 今日僧堂 上間掛巡堂

牌、下間掛點茶牌、施餓鬼位牌 五岳之書様

一 十六日 諸兩班官代 見于正月八日之處

一 秉拂遷寮

九月

一 十七日 普門寺開山忌

十月

（五才）

（五ウ）

朔日^カ二日ニ達磨忌ノ疏ノ銘ヲ、維那ノトル、案内ヲ云、

一 四日 達磨忌宿忌 點供 九拜

一 五日 韋駄天諷經 日中 祖堂諷經 法堂祠

一 堂諷經 獻粥 齋了達磨半齋 著法衣十八

一 拜 拈香 報^{スル}列拜ノ圖^下時、著^テ平衣^一而列拜、半齋

祖忌 常樂、祠堂ノ請取、書様、齋料、送狀、書様 一十五日開山忌

一 就于常樂菴小齋 一十六日開山宿忌 一^二

常樂 一^二佛殿 三^三法堂 點供九拜 次^二諷經

一 開山忌ノ報并方丈ノ列モリ坐牌圖

一 十七日 早晨佛殿ノ粥諷經 法堂ノ獻粥

常樂諷經 方丈ノ齋 齋後^二法堂ノ半齋 法衣^ニ而

一 十八拜 拈香 平衣^ニ而列拜 半齋於^二佛殿^一安

坐諷經 開山忌法堂ノ莊嚴 常樂莊嚴 十八

日懺法

一 禪客評定 冬節 一上堂小參ノ問禪、自^二正月元旦^一

一 至^二十二月除夜^一差定 一秉拂ノ法語ヲ、呈^{上スル}上方^一事、

一 上堂小參ノ問禪ヲ、呈^{上スル}上方^一事 一榜ノ書様 正月ト結夏ト冬節ト

○^{具住持書也} 一秉拂ノ日、住持ノ諸道具 一上堂ノ法衣、

一 小參ノ平衣之事 一秉拂之前日、都寺往^二前堂寮^一、

一 有^二榜ノ礼^一 一秉拂之前日之晚、住持於^二佛殿^一燒香

(六才)

(六ウ)

三拜ノ赴_二五社_一 一五社ノ土地堂念誦 一大坐湯

此詳于此也 一大坐湯ノ後、諸兩班於_二首座寮之橫廊_一、

有_二小問訊_一、一常樂諷經 施餓鬼 小參_ハ、鼓一

通也 小參上堂之時、住持赴_二茶堂_一、付諸位侍者

沙囃ノ式 一於_二法堂後門_一、諸兩班有_二謝語之禮_一、

茶堂ノ茶礼_{詳于此也} 法堂習

冬節秉拂當日

一 早晨 粥僧堂_{詳于此也} 祝聖 土地堂諷經 祖

堂諷經 法堂東間祠堂諷經 茶礼_{茶堂} 常樂

諷經并祠堂諷經 榜礼 草飯 禪客僕_{進メテ果}

十錢ノ酒、與_二五 一上堂_{詳于此也} 諸兩班座下ノ問訊ノ次

第 節ノ礼_{詳于此也} 一秉拂ノ當日_二僧堂_三掛_下巡堂_下與_二點

供_一之牌_{上事} 一巡堂_{詳于此也} 一巡堂ノ燒香ノ次第并

床ノ圖 日中 一茶礼ノ式_{僧堂〇詳于此也} 一借法座

此詳于此也 一杖拂_{詳于此也} 一丈室礼_同 一侍香寮ノ

礼_同 一塔頭習_同 一句間ノ祝_同 一藥_同

一秉拂ノ鼓_ハ一通也_{但囀ノ下間ノ鼓} 一茶堂ノ茶礼_{見_二}

于冬節ノ前處 一今晚ノ牌_ハ藏司寮之役也 一頭

首ノ僕_ノデタチノ事_{并禪客ノ僕} 一頭首當日束帶之

（七才）

事 一 制^結頭首ノ帽子ヲ脱^{スル}日限之事 一 頭首ノ寮頭

當日ノ式之事 一 頭首當日ノ隨身ノ事 一 聖僧侍

者ノ禮子之事 一 頭首當日ノ礼子之事 一 謝語ノ

包紙ノ上ノ書付^ケノ事 一 前版寮ノ坐牌之事 一 後板

寮ノ坐牌之事 一 下拈提之事 一 秉拂同班^{トク}ノ句

見^{ミセ}ノ事 一 秉拂ノ法堂習之事 一 同門徒ノ習之

事 一 秉拂寮ノ待^テ經營衆^ヲ之事 一 久^ク不出之輩

出頭、則自^ニ秉拂寮^一、不時^ニ報^ニ草飯^一也 一 聖僧侍者ノ

イハレノ事 一 兩節ノ秉拂^ニ指合^ニ忌事^一 一 秉拂謝

上堂ノ草飯ノ坐牌ノ事 一 五頭首寮ノ開山ノ替^{カハル}事

一 鼓^{上堂 小參 秉拂 入院 退院} 一 前堂煖齋之事、并

後堂以下 一 佛殿祈禱ノ燒香之事 一 臘八之

式 天龍諷經 一 臘月十日布薩羅漢供ノ差

定、佛殿ノ上間ノ柱^ニ貼^レ之、一同十二日自^ニ上方^一以^ニ客

頭^ニ前往衆參暇^一、明日之晚^ニ修正評定^ト觸^ル也 同十

三日修正詳 一 十四日放參畢沙喝上^ニ維那寮^一

乞暇 一 正月^ニ張^ル榜ノ小卷物之事 一 佛殿ノ修正

坐牌之事^{維那書之} 一 維那寮ノ煖拂^ス之事

一 除夜諸行事ノ次第 一 擊^ニ風呂ノ鼓^一事 一 施浴ノ

(七ウ)

(八オ)

（八ウ）

- 位牌ノ書^キ様事 一 風呂^ハ入^ル次第ノ事 一 東序轉位、
- 次第 一 浴主^ハ、雖^ニ東序^ト、約^ニスル兩班^ニ則^ニ西序也、
- 毎日ノ行事、住持懈怠之時、兩序代而燒香之事、
- 坐禪之式^{僧堂、首座之所、主也} 一 五頭首ノ坐禪之式
- 本寺ノ行事ノ次第 早晨 晡時 夏中ノカハリ
- 月中行事ノ次第^{日毎} 一 祝聖ノ燒香之事
- 毎日檀那兩度祈禱之事
- 公方ノ祈禱之時之事 一 臨時ノ祈禱之時之事
- 毎月旦望^ト十七日、自^ニ常樂諷經^ニ歸時、下位ノ兩班亦
- 隨^ニ前堂^ニ至^ニ前堂寮前^ニ歸寮相向問訊如^レ常也、
- 永明院開山三百年忌式
- 大慈ノ開山三百年忌ノ式
- 凡照牌ト云ハ、牌ノ肩^ニ貼^レ紙掛^ル牌ヲ云ソ、
- 侍狀ノ官錢ノ書様 一 後版ノ官錢ノ書様
- 逆修祠堂入牌料ノ書様 一 無拂出錢ノ請取書様
- 塔婆錢ノ請取ノ書様 一 方丈單寮ノ請取ノ書様
- 梨月西堂入牌料ノ請取ノ事
- 東堂祝齋料ノ請取ノ事 一 掛搭僧ノ目子ノ書様
- 沙喝掛搭ノ目子ノ書様 一 珍都寺弟子^ニ讓^リ與^ル支配

（九オ）

之書樣ノ事 一 寄進祠堂錢ノ請取ノ事

一 立石塔^一地子錢ノ之請取ノ事

(九ウ)

東班位次 入寺法語謝語次第

都寺禪師 西班牙堂中第一座禪師

監寺禪師 後板座元禪師

悅衆禪師 記室禪師

副寺禪師 藏司禪師

典坐禪師 藏主禪師

浴室禪師 知賓禪師

直歲禪師 侍香禪師

(二〇才)

上堂問話禪師

小參問話禪師

侍狀禪師

侍客禪師

侍衣禪師

(二〇ウ)

侍藥禪師

元旦

粥僧堂<sup>礼子見
王前</sup>

祝聖<sup>粥餽經
無之</sup>

咒災 祖堂諷經^{大悲}

法堂祠堂諷經<sup>上闕大
悲咒</sup>

常

土地堂諷經<sup>大悲
咒</sup>

樂諷經附祠堂諷 齋了上堂 節礼礼子見 庫

司礼礼子見 巡堂礼子見 懺法方丈 羅漢供

日中尊勝陀羅尼、觀音經、消災咒 茶禮僧堂、凡自元旦至第三日、有茶礼、元日、有住持、者都寺、第二日者首座、茶、侍香代、而巡堂、第二日者都寺、第三日者首座、 看經都寺引具故警、大悲咒、引具畢時、維

正月修正、并善月看經之事、殿裡敷長床ナカトコ各坐ナカトコ看經

也、住持燒香須ハク履履侍香モ亦著ハイ履可レ從レ之、今時或ハ侍

香脱ク履履者非法也、或ハ住持モ亦有脱履者、禮樂之泯スル甚シ

矣 放參楞嚴咒、觀音經、大悲咒、消災咒

正月朔旦、點心、胡餅、大衆并頂相ハ五ヶ、住持ハ八ヶ、東

堂ハ七ヶ、西堂并座元ハ六ヶ、參暇西堂ハ七ヶ、但シ平西堂

ナミニ六ヶニテ、參暇ノ分ニ一ヶ渡ル心也、元旦ニオクルゾ、捻ッ

是ハ行者ガ、ヨリヤオテ、奉行ソツカセタル事ナレトモ、一旦

行恩兄部ガ代ニ、シツケテアル程ニ、兄部ガ役ノヤオニ見ヘ

タレトモ、サオデハ無シ、門前ノ諸職人、イモジ、油オリニ至ルマデ、

盡ク受ル也、大工ハ三分、イントオハ二分受ル也、

二日

五社諷經楞嚴咒、消災咒 粥諷經觀音經、消災咒、修正中如此 祖師

堂大 祠堂下間、大 齋了懺法 羅漢供 大

工ノ事始殿前 日中 茶禮 看經 放參

（二一ウ）

（二一オ）

三日

祖堂諷經楞嚴咒

粥諷經 齋了懺法 羅漢供

日中 茶礼 看經 孝明寺諷經楞嚴咒、大悲咒、消災咒、即多聞

諷經也 略放參

四日

火德諷經 粥諷經 方丈齋 懺法 羅漢供

日中 看經 放參

正月四日、函丈點心報、豎紙也、前三日、客頭報之

來入日就于

函丈點心

侍衣——拜請

温如座元謹奉

文峯座元謹奉

——都寺

——首座

沙喝

——沙彌

——喝食

單寮者道號、蒙堂以下至沙喝、雙字名、

坐禪者、雙字名也

大衆粥諷經畢、至三函丈、自二上東堂西堂、以耆舊次第、與侍香、問訊就座、侍香者立唐戸左、接大衆、大衆就

(一一才)

(一二ウ)

レ座畢マ、行者點^レ燭、於^レ是侍香進立^ニ中央^一問訊^ノ、而執^ニ大香
合^一燒香問訊^ノ立^ニ中央^一、其後行者行^ニ銀盞^ヲ點^レ湯、喫^レ湯了^ル
時、侍香一步進^テ而問訊^ノ退去^ル、然^ニ至^ニ長老^ノ前^一問訊^ノ、就^レ座
喫^レ湯、其後行者先^ツ於^ニ四首頭^ノ前^一問訊^ノ、執^ニ銀盞^一、次行^ニ點
心^一也、長老出^ニ中門^一、送^ニ大衆^一、

五日

韋駄天諷經 粥諷經 懺法并滿散

五日 方丈滿散儀式

緣外掛銀錢^{キンマ}經馬、本尊^ノ左右高燭臺點^レ燭、几子備^ニ洗
米及茶湯^一、不^レ立^ニ兩班^一、住持者向^レ東西方^ニ立班^一、大衆皆
隨^ニ其後^一、維那脫^ニ帽子^一、進至^ニ本尊前^一、供^ニ茶湯^一、故袖裡^ニ持^ニ
香合^一、退立^ニ唐戸左邊^一、而舉^ニ楞嚴咒^一、讀^レ疏畢マ、聞^レ磬更舉^ニ
消災咒^一、放^レ是維那進^ニ本尊前^一、取^ニ茶湯^一出^ニ緣外^一捨^レ之、行
者取^ニ疏及經馬等^一、於^ニ方丈庭^一祭^レ之、期日維那者、先^ツ著^ニ
打眠衣^一、赴^ニ方丈^一、請^ニ諸役者^一、大悲咒畢マ、至^ニ一心^一時、歸^レ寮^ニ
改^ニ威儀^一、至^ニ觀音經^一、更赴^ニ方丈^一也、故維那者、期日不^レ打
磬^ヲ、雇^ニ他^ノ懺法衆^一打^レ之、鉢^ハ者三雙、鼓亦三雙、但鼓者^ニ
雙亦可也、

六日

（二三オ）

（二三ウ）

普庵諷經 楞嚴咒、
消災咒 粥諷經 齋了羅漢供 日中

看經 放參 風呂

七日 羅漢供、自維那寮僧衆出、卷羅漢、繪

粥諷經 齋了羅漢供 日中 看經并滿散

略放參

一 正月八日、諸兩班官代之事、他寺者、盡十六日官代

也、當山八日倡官代者、蓋國師十六日欲赴建仁之官代故預於八日也、結夏十三日啓建之類也、

官代規式

東西ノ兩班相共ニ到ニ無價軒、而先ッ東序不レ立レ香、與ニ住持ニ觸禮、觸禮畢^テ而出ニ縁外、次ニ西序與ニ住持ニ觸禮、然後兩序共ニ到ニ茶堂、東序ハ者入口床^ト自ニ西ノ首ニ至レ東相並^テ居^ス、西序ハ者入口ノ床ニ自レ東至レ西相並^テ居^ス、位次未レ定故ニ謂^ヒ之ヲ胡亂座、亦謂ニ不臘次^ト也、住持ハ者坐ニ中央ノ椅子、於レ是點^ス茶、此ノ茶ハ者住持爲^メニ定ニ兩班ノ之位、聚^テ大衆ニ相接待^{スル}ノ之茶也、喫^レ茶畢^テ、請^シ客頭以ニ目紙^テ奉^ニ住持ニ、住持下^テ椅子ニ西向^キニ立^テ、先ッ讀^ニ東序ノ目紙、於レ是待客進^マ、自^ラ首次第^ニ請^ス東序、東序受^テ請、乃^テ都寺引^ニ維那監寺ニ到ニ住持ノ前、先ッ小問訊^ク、都寺一人立^レ、香、兩扇觸禮^展、觸禮畢^テ而都寺引^ニ維那監寺^ヲ、到^ニ

(二四才)

(二四ウ)

茶堂ノ横廊下^一、東ノ壁ニ北^ラ爲^レ首向^テ西立也^一、次ニ住持讀^ニ西序ノ目紙^一、侍客進^テ自^ニ首座^一次第^ニ請^ス西序^一、首座乃引^テ後堂以下^一、到^ニ住持前^一、先ッ小問訊^ノ、首座一人立^テ、香觸禮、觸禮畢、而首座引^ニ後堂以下^一、到^ニ茶堂横廊下^一、西ノ壁ニ北^ラ爲^レ首向^テ東立也^一、其後又兩序共^ニ入^ニ茶堂^一中^ニ有^ニ湯礼^一也、侍香ハ立^ニ入口之上間^一接^ス之、先ッ西序自^ニ下位^一入^ル、其後東序自^ニ下^一位入^ル、皆與^ニ侍香^一問訊ノ入也、住持ハ者坐^ニ中央ノ椅子^一、首座者坐^ニ住持右邊之椅子^一、都寺者坐^ニ住持左邊ノ椅子^一、監寺坐^ニ住持左邊之横^{ナル}床^一、後堂者坐^ニ住持右邊之横床^一、維那者坐^ニ上間之豎床^一、書記以下者坐^ニ下間之豎床^一、皆以^レ北爲^レ首也、各到^ニ其位^一先立^テ待^ニ侍者揖坐之礼^一也、於^レ是侍者進^ニ中央^一問訊、其時各坐也、是揖坐ノ礼也、自^ニ揖坐ノ礼^一至^ニ搦湯ノ礼^一マテ、其マ、ソコニ居テスルゾ、衆皆坐^ノ後、侍香取^ニ大香合^一、以^ニ右手^一炷^レ香問訊、是揖香ノ礼也、衆喫^レ湯畢^テ、侍香又問訊ノ出也、是揖湯ノ礼也、湯ノ礼終^テ衆出^ニ茶堂^一時、與^ニ住持^一於^ニ茶堂ノ之入口^一問訊スル者兩度矣、住持者東邊ニ向^レ西立^テ、兩序ハ者西邊ニ向^レ東立^ツ、以^レ南爲^レ首、東序ハ者立^テ前、西序ハ者立^ツ其後^一、相重^{ナテ}與^ニ住持^一問訊ス也、次住持於^ニ僧堂^一授^ク被位^ヲ於^ニ西序^一也、先ッ兩序相共^ニ到^ニ僧堂^一、首座

以下者立^ニ首座床之前^一、後堂者立^ニ後堂床之前^一、皆差^{サシ}下^{サカツテ}其位^{ヨリモ}、暫待^{サツ}住持ノ之授^ニ被位^一也、東序ハ者煖簾ノ下^{シタ}東爲^レ首、自^ニ知客床ノ床首^一至^{マテ}聖僧床ノ邊^一、相ヒ並立ッ也、侍者^{外平}戶僧堂之北ノ床ニ南ヲ爲^レ首、相並立ッ也、於^レ是先ツ鳴^ニ堂前ノ鐘^一、住持到^ニ首座^一問訊^ノ、接^{シテ}上首座ノ位^一、相向^テ問訊觸礼、然^ノ住持透^{トラツテ}聖龕ノ左邊^一、到^ニ後堂ノ前^一問訊^ノ、接^{シテ}上後堂ノ位^一相向^テ問訊觸礼、然^ノ住持ハ自^ニ後堂ノ床直^ニ過^ニ北邊^一屈轉^{クルリマハツテ}廻^マ、到^ニ書記ノ前^一、問訊、與^ニ東西藏^一一種^ニ接^{シテ}上^{クル}也、相向^テ問訊觸礼、然^ノ住持ハ者立^ニ椅子ノ前^一居^{スル}也、此^ノ後ハ東序ノ巡堂也、先行者持^ニ東序ノ目紙^一奉^ニ住持^一、侍香透^ニ聖龕ノ右邊^一過^ニ左邊^一到^ニ住持ノ前^一問訊^ノ受^ニ目紙^一插^ニ左脇^一至^ニ槌邊^一也、侍香乃自^ニ住持ノ手^一、受^ニ其^一目紙、透^ニ聖龕ノ左邊^一行^テ槌ノ邊^一鳴^レ槌一下、讀^ニ目紙^一也、讀^ニ目紙^一畢^テ鳴^レ槌一下、於^レ是侍客請^ス東序、都寺引^ニ維那監寺^一到^ニ住持ノ前^一、相並問訊、兩展觸礼^ス也、次^ニ都寺引^ニ維那監寺^一透^ニ聖龕ノ左邊^一過^{スキ}右邊^一、到^ニ聖龕ノ前^一、都寺一人炷^レ香三拜、三拜畢^テ而具^ニ威儀^一、自^ニ爐邊^一南^ニ、向^ニ北^一相並立^テ也、於^レ是侍香自^ニ槌邊^一透^ニ聖龕ノ左^一、到^ニ東序ノ前^一問訊^ノ、侍香引^ニ東序ノ巡堂一匠^一也、巡堂畢^テ而東序立^ニ煖簾^{ナウレン}ノ下^一如^シ初也、然^ノ侍香者透^ニ聖龕ノ左邊^一往^ニ槌邊^一鳴^レ槌一下云、請^シ知事^ヲ訖^{シヌ}矣、於^レ

レ是行者報ノ曰、知事礼謝大衆作礼觸礼、大衆盡ノ觸礼ス、
行者又報、曰、大衆普同作礼觸礼、大衆又觸礼也、」今

（二六ウ）

於、僧堂ニ讀ム「ハ、目紙ニ者、只限ル東序ニ耳、僧堂ハ者無シ東序ノ班ニ、今
新ニ讀ニ目紙ニ令ニ巡堂ニ、令ニ東序掛ニ搭于僧堂ニ之儀也、」西序
者已ニ有「某某ノ之班位ニ、是以別ニ不レ及レ讀ニ目紙ニ、只授クル被位ニ
耳、」觸礼畢、而行者又報、曰、大衆送ニ新知事ニ歸ニ庫司ニ、都
寺乃引ニ維那監寺ニ、自ニ佛殿ノ前、置路ニ到ニ香積ニ、韋駄天ノ右
邊ニ東ヲ爲レ首ト、少差シ下ツテ位ニ相並テ立ツ也、住持到ニ庫司ニ韋駄天ノ
左邊ニ向レ北ニ立テ、與ニ都寺ニ問訊ス、與ニ維那監寺ニ一種ニ接ニ上ケテ位ニ
相向テ問訊觸礼、是レ乃住持度ニ與寮ヲ於東序ニ之義也、東
序ノ礼ハ於レ是終ル矣、」此ノ後住持度ニ寮ヲ於西序ニ也、五頭首ハ者
自ニ僧堂ニ歸テ、各立ニ某某ノ寮ノ前ニ、維那者自ニ香積ニ歸テ、立ニ維
那寮ノ前ニ也、住持自ニ香積ニ直ニ到ニ首座ノ寮ニ度ニ寮ヲ於首座ニ、住
持者立ニ上間ニ、首座ハ者立ニ下間ニ、先於ニ履脱ノ下ニ問訊ノ、到ニ客
殿ノ中ニ相向テ問訊觸礼、不レ立レ香也、住持歸ル時キ、首座自ニ住
持ノ前ニ到ニ廊下ニ、與ニ住持ニ相向テ問訊也、度ニ首座寮ニ畢、而次
到ニ維那寮ニ、次後堂次書記次東西藏、礼子如ニ首座寮ニ、
也、」此後舊兩班爲ニ新兩班ニ度ニ某某ノ寮ニ也、入ニ客殿ノ中ニ、先
舊兩班者立ニ主位ニ、新兩班者立ニ賓位ニ、相向問訊觸礼、

（二七オ）

不_レ立_二香、然後又舊兩班者立_二賓位_ニ、新兩班者立_二主位_ニ、
相向問訊觸礼也、維那者維那、首座者首座、各各如_シ

(一七ウ)

レ此也、其後自_二衣鉢閣_一、送_二侍者ノ目紙於維那寮_ニ、四人ノ侍
者上_二維那寮_ニ、於_レ是客頭度_ニ與_二目紙於維那_一、立_二ナカラ_一讀_二目紙_ニ、
讀_二目紙_ニ畢_マ、侍者首_一一人立_レ香觸礼、觸礼畢_テ坐_二ノ喫_レ茶_ニ也、
然_レ而維那引_二テ四人ノ侍者_一到_二無價軒_一、維那者不_レ入_レ内_ニ

而立_二戸外_ニ、待_二侍者之礼_一終_ル也、侍者入_レ内首一人立_レ香、
與_二住持_一相向問訊觸礼、觸礼畢而坐_二有_二湯ノ礼_一、於_レ是維

那自_二戸外_一入_レ内、坐_二侍者ノ之首_ニ喫_レ湯也、只今維那到_二ハ方

丈_ニ者爲_レ加_ニ此_一湯ノ礼_ニ也、自_レ其侍者歸_二某某之寮_一、先各立_二

履脱之前_一待_二維那_一也、維那往_二侍香寮_一、各自_二度_ニ寮_ニ、猶_シ如_下

住持之度_ニ寮_ニ於五頭首_一之礼_上也、侍者授_二被位_ニ、及_二度_ニ寮_ニ、

者維那ノ職也、次_二舊侍者爲_二當侍者_一各自_二度_ニ寮_ニ、五頭首

等之互_ニ如_二度_ニ寮_ニ之礼_一也、総_二東知事_一者、住持自_二無_レ度_ニ寮_ニ

也

(一八オ)

永正十一乙亥年正月晦日、光東書記汪寮

正月八日 秉拂 遷寮次第

正月五日、遷寮内報

維那内報

内報之礼、杉原十帖、扇子一本、送之侍衣也

一 八日遷寮之日、即報結制草飯報曰來結制就^{前板}

<sup>書記藏
主藏司</sup>

寮、草飯、――西堂者爲^二諸老^一報^レ之、侍者^ハ者爲^二

平僧^一報^レ之

一 遷寮之日、頭首具^二威儀^一、巡^二諸塔頭之礼^一、若有^二襪子扇

子樽等贈、則隔^レ日而往謝焉、或袖^二孔方^一而有來者、頭

首自持^レ之、往謝而還^レ之、

一 遷寮當晚藥^二石、兩汁三菜、被^レ待^セ小門徒上下一堂之

衆

一 每日行事頭首出入共^二先立^二履脱之前^一、與^二同伴^一相向

問訊而後進也、凡^二以^二維那之出^一爲^レ期、

一 每晚鯨刻、頭首著^二布衣七條^一、七堂燒香、

若有^二住持入坐禪時者、放參之次著^二羅衣^一、直^二燒香^一、不

然者爲^二後坐禪^一之故也、

一 頭首行事懈怠之時者、先報^二懈怠於同伴^一、

一 五頭首入坐禪儀式<sup>見^二于坐
禪部^一</sup>

正月十一日吉書ノ案文

東福寺吉書

天下泰平國土安全、寺門繁昌砌也、當寺領賀州熊

（二八ウ）

（二九才）

坂庄、周坊國得地三箇村、并諸庄園豐饒、而所_レ全寺務_一也、殊新御寄進地有_レ之、任_二先例_一米錢等每日令_二寺納_一、富貴萬福、千喜萬悅、千秋萬歲、千秋萬歲、

慶長十_乙年、正月十一日

納御寺領米錢之事

合 萬萬解
萬萬貫者

右攸納之狀如件

慶長十_乙年正月十一日

東福寺 都聞 納所

二月十日 後板寮招_ク書記寮_ノ之一衆_ヲ、而貼待冷麵_{展平}

及_レ薯蕷羹、五種ノ果子、食籠等、以備_レ之、寶勝妙德ノ二老_モ

亦見_レ赴_二其座_一、凡有_二同伴_一、則互_ニ脩_ニスル_一隣好_ヲ、例_ノ而如_レ此矣、

二月十二日、於_二寶勝院_一小齋、招門徒一堂并滿山ノ行

者_一衆、凡遷寮之祝_ハ者、放當_ニ於_ス其_ノ日_ニ也、然_ル遷寮之日者

事繁_ノ而不_レ暇_レ調_レ之、故延而至_ニ今日_一焉耳、齋者兩汁四

菜、五種ノ果子、以_二各盞_一行_レ酒_ヲ、依_レ表_ニスル_一祝義_ヲ臨_レ齋_ニ而先_ツ出_二土

器ノ盃_ヲ也、皆著_二羅衣_一而掛_二五條_一也、書記出而相伴門送、

二月十七日、書記寮招_ク後板寮_ノ之一衆_ヲ、貼待湯漬六

菜一汁、以_二湖月常樂_一爲_二加請_一、書記出_テ而相伴、後板者

居_二主位_一、書記者居_二賓位_一、來賓之衆者、皆著_二羅衣_一、給仕

(二九ウ)

(二〇オ)

一
之衆ハ者、皆著ニ布衣ニ也、客歸ル時書記下ニ縁外ニ門送、
八日 三八念誦 毎月、八日、十八日、廿八日

住持聞ニ大鐘ニ自ニ後門ニ入ニ佛殿ニ、諸堂燒香、到ニ尊前ニ時、
鳴ニ燒香ノ鐘ニ、然而自ニ西之口ニ出、而到ニ僧堂ニ也、

頭首者知客床ノ前ニ以レ北爲レ首一列ニ立ッ也、維那者戸僧
堂之入口之左邊ニ向レ西立也、住持入レ堂而先往ニ聖龕、

前ニ燒香三拜、次ニ煖簾ノ下ニ向レ東立也、於レ是維那一步進テ
而問訊ノ唱ニ念誦ニ、念誦畢而行者報曰、大衆免巡堂ト、於

レ是住持者戸僧堂ノ之北ノ方ニ向レ南ニ立ッ、維那者南ノ方ニ向レ北
立ッ、頭首亦與ニ維那ニ其後ニ相重テ立ッ、與ニ住持ニ小問訊スルコト兩度

也、免巡堂ト者免人事之義也、上古ニハ者三八ニ有ニ湯ノ礼并
巡堂ニ、今ハ略ス之、故報ヲ曰ニ免巡堂ニ也、礼終テ而頭首者自ニ西

廊ニ透マ、自ニ西ノ口ニ入ニ佛殿ニ也、東序ハ者自ニ置路ニ透マ、而自ニ正西
之東ノ口ニ入ニ佛殿ニ也、住持亦自ニ正面ニ入ニ佛殿ニ也、

二月

一
初午懺法規式 導師香華鉞鼓及磬并自歸等

之諸役者、盡書之引合、維那具ニ威儀ニ持レ之往報焉、上
古者、維那自定ニ役者ニ、今者諸老定レ之、先於ニ兼曰ニ鉞鼓
之役者、聚ニ於維那寮ニ習レ之、維那爲レ之點湯也、云云

(二〇ウ)

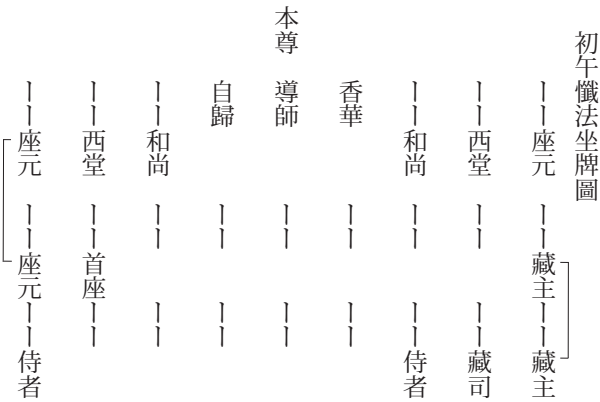
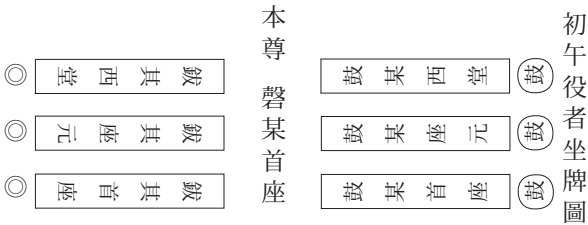
(二一オ)

方丈莊嚴、自_二維那寮_一辨_レ之、三十三幅觀音ノ前、掛_二打敷_一
 華瓶香爐洗米_一、_二備_レ之_一、以_二杉原_一盛_二大衆ノ坐牌_一、鉞者
 古雖_二五雙_一、今者定_ム之_二三雙_一、舊者立_カ之_二撞_レ鉞_一、今者坐_二撞_レ之_一、
 維那達_レ之者_一、代_テ維那_一擊_レ磬_一、維那者始_メ自_二大悲咒_一至_二爾_マテ_一
 心_一、逢_二懺法_一、先歸寮_一、滿散之時、重改_二衣儀_一來_ル也、請_二鉞鼓_一
 導師香華等之役者_一、亦維那請_レ之、請_{スル}時者脱_レ帽_一挿_二坐_一
 具_一、相向問訊也、頭首_ハ者滿散之時、始_テ至_二方丈_一耳、住持
 燒香兩班如_レ常也、滿散之時、掛_二經馬_一於_二廣縁_一之柱_一、維
 那讀_レ疏畢後、堂司又鳴_レ磬、維那更舉_二消災咒_一、此時都
 寺捨_ル「茶湯_一如_レ常、誦_二消災咒_一畢時鳴_二後勸請之鉞_一也、後
 勸請_ノ鉞_ハ者立_ナ之_二撞_レ之_一、無_二住持_一時、首座燒香、
 初午懺法、上古者三十三人而讀_レ之、相公寄_二進_{スル}華械_一
 者三百矣、依_レ此闔山ノ清衆、盡赴_二其場_一耳、
 前一日鉞鼓之役者、到_二維那寮_一習_レ之、早晨自_二維那寮_一、
 以_レ僧報曰、晚間來_テ可_レ被_レ習_レ鉞、臨_レ期更以_二使僧_一請_レ之、皆
 著_二布衣_一可_レ赴也、
 懺法終_テ、不_レ祭_二經馬等_一者、初午之懺法者、蓋回祿之祈
 禱也、忌_レ火_一之故_二不_レ祭_レ之也、
 滿散之時、高燭臺_一燭_二挺_{スル}點_{スル}也、

(二二ウ)

(二二オ)

(二二ウ)



(二三才)

役者坐牌ハ皆引合也、其外平僧出世ラ不限ラ大衆

並^{ナミ}坐牌ハ杉原也、

（東堂ハ書院號^ヲ

導師 一一^{西和堂尚}

西堂^{ハ書院號^ヲ}

自歸 一一^{西和堂尚}

香華 一一首座

（平僧ハ双字名也若西堂則道号

磬 一一藏司

鈹 一一

鼓 一一

鈹 一一

鼓 一一

殿裡立班之圖、并出班焼香次第、行導之時ハ侍藥^方
一チノ先也、

本尊

香爐

住持

侍香
侍衣
侍藥

都寺
監寺
維那
副寺
典座
直歲

高僧
後板
書記
其藏
印多
住持

(二四才)

(二三ウ)

行道次第

侍藥^二ノ先^一也

一侍藥 二侍衣 三侍客 四侍狀 五侍香 六直歲 七典
座 八副寺 九維那 十監寺 十一都寺 十二住持 十三前堂 十四
後堂 十五書記 十六藏司 十七藏主 十八知客 十九浴主 廿大衆

立班ノ圖如^レ此、點供ノ時ハ者、維那問訊^ノ離^レ位、請^ニ諸兩班^一畢^テ、
歸^ニ本ノ位^一時、行者鳴^レ鉞^ヲ、於^レ是諸ノ役者離^レ位如^レ此ノ立^ッ也、請^ニ
兩班^一之礼子ハ者、見^ニ于不二之規式^一也、

（二四ウ）

不二岐陽和尚點供規式

維那出^レ位向^ニ住持^一問訊、住持立^ニ東序ノ頭^一、次維那向^テ首
座^ニ問訊、不^レ捨問訊^ニ而向^ニ知賓之前^一問訊畢、亦向^ニ西堂^一
問訊畢、亦向^ニ東單寮^一問訊、不^レ捨問訊^ニ而向^ニ都寺^一問訊、
猶不^レ捨問訊^ニ而向^ニ直歲^一問訊畢、則維那歸^ニ于位^一行者
鳴^レ鉞、而次第^ニ薦^一點供^ニ矣、

（二五オ）

侍和
侍和
上方
監寺
維那
副寺
典座
直歲
參暇

本尊

香爐

點供

侍者
侍者
前後板
書記
藏主
藏司
知客
浴主
參禮

頭

都寺

却來

都寺

點供已畢時、行者叫「列礼圖」、於「是諸兩班左右相分、立」^三「列拜圖」、如「此也、見」^二「於後面」^二也、
薦^ニ點供^一、無^二侍者^一、則「行者薦^レ之、蓋無^レ住持」則無^レ侍者^一也、
列拜圖之立班

侍藥
侍衣
侍客
侍狀

(二五ウ)

如_レ此立_レ圖_ニ時、行者即鳴_レ鉦、維那問訊_ノ離_レ位到_ニ爐邊_一、如_ク
レ此立_テ、然一步進_テ向_ニ住持_ニ問訊請_ス之、住持即燒香、侍香

						本尊													
						香爐	雅勝												
						東堂	東堂	東堂	東堂	東堂									
						西堂	西堂	西堂	西堂	西堂									
						浴主	知客	藏司	藏司	書記	後板	前板	住持	都寺	監寺	副寺	典座	直歲	侍香

（二六ウ）

（二六才）

侍_二香合_一隨_二其後_一、次向_二諸東堂_一問訊、次向_二諸位西堂_一問訊、其次向_二東西序_一問訊、先請_二都寺_一、次請_二前板_一、次請_二監寺_一與_二後板_一、次請_二副寺_一與_二書記_一、次請_二典座與_二東藏_一、次請_二直歲與_二西藏_一、次請_二知客并浴主_一、此二人同時_二進_二燒香_一時、維那進_二三人相並燒香_一、維那即歸_二本位_一、於_レ是行者鳴_レ鈴、各各展_二坐具_一三拜、爲_二諸東堂_一聽叫敷_二拜席_一也、列拜_ノ時者、諸位侍者_モ皆同_ク展_二坐具_一三拜_{スル}與_レ衆同_シ、凡出班燒香、進時_ハ叉手、退_ク時_ハ於_二佛前_一問訊、不_レ捨_二其_一問訊_ヲ歸_レ位也、退_ク時_ハ自_二下位_一前行_{スル}也、於_二爐前_一相並_二先_一問訊_ヲ東序燒香_ノ、次西序燒香_{スル}也、然_レ袖中_ニ收_二香合_一、退_ク「三步_{ハカリ}許_二問訊_一去也、二祖三佛如_レ此、

佛涅槃

一 早晨、先於_二經藏_一前_ニ、焚_二祝聖香_一、有_二香語_一、其後祝聖諷經、祝聖畢、於_二本尊_一前_ニ粥_ノ諷經、諷經畢_テ、東西序共自_二後門_一出_テ、直往_二茶堂_一茶礼、次常樂諷經、「齋退上堂、上堂不_レ爇_二祝聖_一香_一、上堂畢_テ、東西序共_ニ直_ニ往_二佛殿_一半齋諷經、東序者自_二法堂面_一之東_ノ金剛垣_一出_ツ、西序_ハ者自_二同_一面_ノ之西_ノ金剛垣_一出_テ、自_二佛殿_一後門_一至_二本尊_一前_ニ立班、先鳴_レ鈸點供、次

一
九拜、次鳴^レ鉦出班燒香、次維那先讀^テ疏^ヲ而半齋諷經、
啓唱^ハ者南無本師釋迦牟尼佛、回向者通回向、
晚間略^ニ放參及坐禪^一、以^レ故下^レ部而不^レ點^レ燈、
涅槃像者、應永十五戊子、兆殿主五十七歲、六月所
畫也、

（二八才）

三佛^ニ者、不^レ鳴^レ鐘而先^ツ上堂、上堂畢、鳴^レ鐘就^ニ大佛殿^一諷
經、先點供、次九拜、次出班燒香列拜畢、維那就^テ位^ニ讀^テ
^レ疏^ヲ而始^ム啓唱^ヲ也、浴佛^ニ者、唱^ニ浴佛偈^ヲ也、
無^ニ住持^一則首座九拜、
三佛二祖ノ疏^ニハ、不^レ撞^{ツカ}印^ヲ也、

前資行道、并坐牌之事

行道者臘次第也、故雖^レ爲^ニ侍香之耆舊^一、行道時者可^レ
^レ在^ニ侍狀侍客等之下^一、坐牌者耆舊次第也、故今昨之
間雖^ニ度僧^ス、侍狀者可^レ在^ニ侍客之上^一、侍客者可^レ居^ニ侍藥
之上^一、侍香者可^レ居^ニ侍狀之上^一、他寺侍者、位已^ニ在^ニ侍狀
之上^一、故可^レ盛^ニ坐牌^ヲ於侍香之下、侍狀之上^一也、行者之
時者、亦當^レ爲^ニ戒臘次第^一也、

（二八ウ）

浴主者雖^ニ東序^一、約^ニ兩班^一則西序也、

二月廿一日 光明峯寺殿年忌、前日於^ニ法堂^一宿忌、

此夕略^ニ坐禪^ニ、下^レ部不^レ點^レ燈、

當日早晨、於^ニ法堂^ニ獻粥諷經、楞嚴咒、次於^ニ常樂^ニ半齋
諷經、同小齋、木坐牌、行者給仕、齋退於^ニ法堂^ニ半齋諷
經、安^ニ影像^ヲ於法座上^ニ、備^ニ鳩備菜^ニ、

三月

(二九才)

一 十八日無準忌

十七日ノ晚宿忌

安^ニ畫像^ヲ於法座上^ニ、而供^ニ鳩備菜^ニ也、宿忌先點供、次九
拜、茶礼時鳴鼓次諷經、回向入^ル住持之名^ニ、嘆佛ノ偈^ハ者、

寶明空海^一、伏願^ノ句者、不捨悲^心、

十八日 早晨粥ノ諷經畢、赴^ニ法堂^ニ獻粥、舉^ニ楞嚴咒^ニ、回

向者通回向也、自^レ其直赴^ニ常樂之齋^ニ、於^ニ昭堂^ニ半齋、不

立^ニ兩班^ニ、行道者耆舊次第也、齋者三日以前具^ニ袈衣^ヲ

口^{ツカ}報^レ之、行者給仕也、齋退就^テ法堂^ニ半齋、先^ツ住持著^ニ法

衣^ニ十八拜、次拈香、次住持脱^ニ法衣^ニ著^ニ平衣^ニ、出班燒香、

同^ク列拜、其後半齋、舉^ニ楞嚴咒^ニ也、

慶長三^戊年三月十八日

無準和尚三百五十年忌

一 十五日、侍衣道具卸衣^ニ諸^ヘ口報也、

座元以下ハ、書^キ立^テ、客頭持^{モツ}テ廻^{マハル}也、

(二九ウ)

（杉原ヲ横折リニス、如クニ類講之報、
來十八日就于

函丈小齋

一 座元

琳 藏 司

維 那

侍 衣

興 侍 者

給仕

璘 沙 彌

阿 毛 頭

一
十七日、宿忌以前ニ、常樂ノ無準木像ヲ、法堂ニ安坐スル也、宿忌ニハ

撞ニ大鐘ヲ、大衆ハ老弱共モニ、道具也、先ッ點供也、

點供ノ次第ハ、如ニ達磨忌開山忌ノ也、

十八日ハ、火德調經、次ニ日中了テ、於ニ法堂ニ獻粥燒香ツ、湯ト茶トヲ

受供ツ燒香ツ、楞嚴咒通回向也、獻粥過テ、赴ニ方丈ニ用レ齋也、

方丈ノ客殿

無準ノ御影一幅、祖餉茶湯果子三具足、中央ニハ香臺ニ香

爐アリ、坐牌ハ引合也、四首頭有ニ坐氈一、接入之後ニ上方ニ

問訊ヲナサル也、侍香接入スル也、無ニ侍客一故也、揖座揖香ハ侍

香燒ツ也、門送ハ住持門内ノ東方ニ南向キニ立テ小問訊ヲ送也、

（三〇才）

（三〇ウ）

齋後
半齋

一 住持著^{ケテ}法衣^ヲ、平衣^ヲハ、聴叫^ニ、手^ニ掛サセテ出也、

入^ニ法堂^ニ十八拜、イツモノ如ク也、十八拜了^テ、諸老立班^{スル}時^ニ、

住持拈^ニ瓣香^ヲ唱^ニ法語^ヲ、法語了^テ進^テ立^ニ香^ヲ歸^ル時^ニ、堂^方報^{スル}列拜

圖^ト時^ニ、住持東ノ柱^ニ倚^{コツ}、脱^{ヌギ}法衣^ヲ掛^ニ平衣^ヲ、中央へ出時^ニ、維那

高燭臺ノ東ノワキへ出テ請^ス住持^ヲ、住持進^ス燒^ス香也、次^ニ前住

衆、次^ニ參暇、次^ニ前板^ト都寺^ト、次^ニ後板^ト維那^ト也、燒香了^テ、各坐

具^ノ一礼ヲノ三拜スル也、三拜了^テ、其マ、打^レ磬^ヲ、維那始^ニ半

齋^ニ也、半齋了^マ、住持ハ歸也、餘ノ諸老ハ、有^ニ燒香^ニ三拜^ニ、

四月

八日 佛誕生^{或号浴佛}

一 三佛^ニ者不^レ鳴^レ鐘、而先上堂、上堂畢鳴^レ鐘、就^ニ大佛殿^ニ諷

經、先^ツ點供、次九拜、無^ニ住持^ニ則首座九拜、次出班燒香、

列拜畢、維那就^テ位讀^レ疏、而始^ム啓唱^ニ也、浴佛唱^ニ浴佛ノ偈^ニ、

一 先^ツ鳴^ニ大鐘^ニ、次鳴^ニ堂前并殿鐘^ニ也、

鳴^レ鼓上堂、次到^ニ佛殿^ニ點供、次九拜、次出班燒香、兩序

者立^ニ長老ノ左右^ニ列拜畢、立班如^レ常、維那即讀^レ疏、讀^レ疏

(三二ウ)

(三二オ)

畢鳴^レ磬^ス舉^ス浴佛^ノ偈^一、次^ニ舉^ス楞嚴咒^一、自^ニ點供^一到^レ唱^ス浴佛^ノ偈^一、
頭首并維那不^レ著^レ帽、舉^ス楞嚴咒^一時、見^ニ住持^ノ著^レ帽、頭首
維那皆著^レ帽、唱^ス浴佛^ノ偈^一之間^ハ者、各^々問訊^ノ而行道、頭首
亦浴^{スル}佛與^レ衆同也、上堂以前、頭首者先往^ニ僧堂^一待^ニ上
堂^一、住持上堂畢、於^ニ座下^一小問訊^ノ而後脫^ニ法衣^一著^ニ平衣^一、
到^ニ佛殿^一、西序^ハ者自^ニ正面^一西^ノ金剛垣^一出^テ、入^ニ佛殿之後門^一、
到^ニ本尊^ノ前^一也、點供及出班燒香之間^ハ者、大衆皆居^ニ後
門^一、列拜以後各到^ニ正面^一也、

(三二才)

義成殿

花堂^ノ額也、銅盤^ニ盛^テ水^ヲ、中^ニ安^ニ佛像^一、浴^レ之、案上^ニ
備^ニ香飯及鳩備菜^一、

(三二ウ)

三佛^ノ疏^ニハ、印ツカヌ^一、

見^ニ于前^一
殿裡立班圖如^レ此

侍^者侍^衣侍^藥

都^監寺^維那^副座^典直^歲

本尊
香爐
住持

前^後板^藏記^主知^客主

(三三才)

結夏秉拂規式

十三日 啓建^{午時} 衆寮諷經^{晚間} ○十四日早

晨小諷經 石塔諷經 戒臘牌燒香^{但土地堂念誦以前}

楞嚴會 榜礼^同 晚間 土地堂念誦^{有借香謝雨時者}

殿裡 大坐湯 常樂諷經 小參^{於後門謝語礼} 茶堂ノ湯

礼 法堂習○十五日粥僧堂 祝聖 土地堂^{大悲}

災^消 祖師堂^{大悲} 祠堂^{大悲} 茶礼^{茶堂} 常樂

諷經^同 祠堂榜礼 草飯 上堂 節礼^{法堂} 庫

司礼 巡堂^僧 楞嚴會 日中 茶礼^僧 借法

座^{佛殿後門、但後堂不預之} 杖拂^同 湯礼 丈室礼 侍香

寮礼 塔頭習^{藥煎物} 秉拂 茶堂湯礼

結夏秉拂規式

十三日 啓建^{午時} 衆寮諷經^{晚間}

楞嚴會規式

先^ッ行者鳴^二茶堂版^一、次鳴^二大庫裡^一、次衆寮、次首座寮版^一、

於^レ是維那持^二香合^一先往^二常樂^一燒香、次韋駄天堂、次選

僧堂、^{行者等ノ額曰選僧堂}次山門、次五社、次衆寮、次僧堂、逐一

燒香畢、自^二西ノ口^一入^二佛殿^一、先祖堂、次普菴、次經藏、次土

地、一一燒香、而到^二三尊ノ前^一、先左邊、次右邊、次燒^二香于

本尊^ニ、而到^ニ中央^ニ燒香畢、置^ニ香合於中央之卓子ノ上^ニ也、

（三四才）

立^ニ華瓶ノ下^ニ、先向^レ西立也、與^ニ楞嚴頭^ニ問訊向^レ北也、啓唱

後楞嚴咒、及^ニ南無因陀羅耶ノ時^ニ又向^レ西也、又打^ニ散鈴^ニ

時、與^ニ楞嚴頭^ニ問訊向^レ北也、刺^ラ怛^タ那^ノ雞^キ都^ツ囉^ラ闍^シ耶ノ時、維

那取^ニ中央香合^ニ、自^ニ三尊ノ前^ニ直往^ニ祖堂^ニ燒香、次普菴、次

經藏、次土地、次三尊、次中央也、又帝^チ鈇^サ薩^サ鞞^ニ鈇^ニ薩^ニ婆^ニ

揭^ケ囉^ラ訶^コ南ノ時^ニ、亦維那燒香如^レ前也、結夏者維那先讀

レ疏也、讀^レ疏畢、楞嚴頭舉^ス啓請^ニ、啓請畢讀^ニ佛母^ニ、讀^ニ佛母^ニ

畢楞嚴咒後啓請^モ亦楞嚴頭舉^レ之、然回向^ラ維那讀^レ之

也、維那先華瓶ノ下^ニ向^レ西立^ツ、待^テ住持ノ來^ニ、與^ニ住持^ニ問訊ノ向

レ北^ニ也、七月十三日、楞嚴會滿散ノ時、者、楞嚴咒畢讀^レ疏

也、

（三四ウ）

夏中者、大衆行道戒臘次第也、但^シ東堂西堂者、只位

次第也、

楞嚴會、住持懈怠時、都寺可^ニ燒香^ス也、

衆寮莊嚴

龕前^ニ掛^ク帳、附平江帶^ニ筋^ニ、其前^ニ置^ニ机子^ニ、敷^ニ金欄ノ打敷^ニ、

鍬赤^ノ三具足立^ニ銀燭^ニ、寮主者入口之上間^ニ圍^ニ屏風^ニ立^テ

舉^ス經、堂司者立^ニ入口之下間^ニ打^レ聲、

住持燒香敷^ニ拜席^ニ、大展三拜、拜畢立^ニ東序ノ首^ニ、於^レ是寮
元出^テ、燒香大展三拜、不^レ敷^ニ拜席^ニ、諷經畢、住持於^ニ廊下^ニ

(三五才)

與^ニ寮元^ニ問訊^ノ去^ル也、

衆寮諷經ノ役者^ハ、三人、寮衆副寮望寮^ヲ是也、諷經^ヲ寮主

始^レ之、回向^ニ入^ル寮元ノ名^一也、

十三日晚間

衆寮諷經行礼

至^レ期^ニ寮主立^ニ衆寮ノ入口ノ南ノ方^ニ接^ス衆、先五位ノ侍者^ハ立^ツ横
廊下ノ南^ニ以^レ西爲^レ首、寮元并維那^ハ北ノ方^ニ相並立、以^レ西爲^レ
首、侍者自^ニ下ノ位^ニ與^ニ寮主^ニ問訊^ノ入^ル寮^ニ、次維那與^ニ寮主^ニ問
訊^ノ入^ル、次寮元與^ニ寮主^ニ問訊^ノ入^ル、各立^ニ曲衆ノ前^ニ、寮元者主

位維那^ハ者實位^ニ、衆人^リ畢^テ寮主副寮相並致^ス行礼^ヲ、寮主

(三五ウ)

者到^ニ寮元前^ニ問訊、次侍香次侍客問訊^シ畢^マ、自^ニ床ノ首^ヲ次
第^ニ巡堂^ニ一匝^ス、副寮者到^ニ維那ノ前^ニ問訊、次侍狀、次侍衣、

一一問訊、自^ニ床首^ニ次第巡堂^ニ一匝^ス、上間者寮主巡堂、

下間者副寺巡堂、兩方遲速相度^ハ度^ツテ、不^レ遲不^レ速、兩方巡

堂畢、中央相並立問訊^ス、是^レ揖坐ノ巡堂也、於^レ是衆問訊

坐^ス、次寮主副寮、進^ニ聖僧ノ前^ニ相並燒香畢、兩人相分^テ、寮

主者上間三處燒^レ香、副寮者下間三處燒^レ香、先燒^ニ東

面之香^一、次西面、次中間、三所燒香^シ畢、兩人又相並、寮主^ハ者到^ニ寮元^ノ前^ニ問訊、次侍客、次侍香、副寮^ハ到^ニ維那^ノ前^ニ問訊、次侍狀、次侍衣、各各問訊上下間相分巡堂、如^二

初ノ巡堂^ニ、一匝畢^テ、中央^ニ相並立^テ問訊^ス、是揖香ノ巡堂也、此

時鳴^レ「版一下^ス、於^レ是行^ニ銀盞^一」、給仕者小僧也、行^レ盞^ヲ畢^テ、又

鳴^レ「版一下^ス、於^レ是行^ニ湯瓶^一」、衆喫^レ湯畢、寮主副寮相並、寮

主者到^ニ寮元^ノ前^ニ特爲^ニ問訊^一、副寮^ハ到^ニ維那^ノ前^ニ特爲^ニ問訊^一、

退^テ相並^テ致^ス大展^三拜^一、拜畢收^ニ坐具^一、寮主者到^テ侍香^ノ前^ニ

問訊、次侍客、副寮者到^ニ侍狀^ノ前^ニ問訊、次侍衣、各各問

訊畢、巡堂一匝^シ畢、中央^ニ相並立問訊^ス、是揖湯ノ巡堂也、

於^レ是又鳴^レ「版一下、給仕出^テ、取^ニ銀盞^一」、寮主^ハ出^テ、寮外^ニ立^テ入

口之南方^ニ送^レ衆、取^ニ銀盞^一畢^テ、衆下^レル坐^ヲ、先寮元出^テ、與^ニ寮主^一

問訊去^ル、次維那、次侍者等、各與^ニ寮主^一問訊^ノ出去^ル、於^レ是

望寮鳴^レ「誦經ノ版^一」、住持聞^レ版來^ル也、寮主送^レ衆畢^テ、入^ニ寮^ノ之

中^ニ、進^ニ觀音^ノ之前^ニ燒香、退^テ立^ニ中央^ニ問訊^ノ、入^ニ屏風^ノ裏^ニ待^レ磬^ヲ

舉^{スル}經^ヲ也、

特爲湯^{ト云ハ}者、謂^フ爲^メ某人一人^ノ點^{スル}湯^ヲ也、

前日寮主到^ニ寮元^ノ所^ニ、報^ニ借寮^一也、到^ニ當日^ニ寮主令^メ行^力ヲ

持^セ湯^ヲ、到^ニ寮元^ノ所^ニ也、寮元^ハ者持^レ湯到^ニ方丈^一也、自^レ其以下

（三六才）

（三六ウ）

寮主持^レ湯到^ニ各所^一也、然^ソ寮主入寮^ソ有^ニ小坐湯之礼^一、寮

主以下、各先踞^ニ入口ノ北^一床^ニ、以^レ南爲^レ頭^ト、客頭報^ニ案内^一時、

往^ニ北^一方ノ中央ノ床^ニ、寮主ト與^ハ望寮^一、西ノ方ノ床^ニ向^レ東^ニ立、副寮ハ東ノ

方ノ床^ニ向^レ西^ニ立^ツ、互^ニ問訊^ノ踞也、於^レ是^ニ行^レ湯、喫^レ之之間^ニ、寮元

來^テ燒香ノ問訊^{スル}時、各舉^ニ銀盞^一答^{フル}其礼^ニ也、然^ソ寮主出^テ寮外^一

立^テ入口之南^ニ接^ス寮元等^一也、云^ニ揖香巡堂畢^一、衆喫^{スル}湯^ヲ時^ハ

者、寮主ハ問訊^ノ入^リ屏風^ノ裡^ニ、副寮ハ立^ツ入口ノ南ノ方^ニ也、喫^レ湯^ヲ

畢時出名也、云^ニ

送湯事、寮元者自持^レ之^ヲ爲^メニ上方ノ獻^レ一包、爲^ニ參暇及頭

首^一寮主自持^レ之各各送^レ一包^ヲ、送^レ湯^ヲ之時有^ニ觸礼^一、

小座湯^{ト云ハ}者、衆寮諷經^ノ時、先^ツ役者バカリ^ニ、別^ニ頌^ノ時題評

スル床^ニテ、進^レ湯^ヲ云^ソ、維那ハ衆寮ノ寮頭也、故^ニ寮元ハ主位^ニ

居^シ、維那ハ賓位^ニ居スル^ソ、寮元寮頭相分^テ坐^{スル}「賓位^ニ、

寮主進退^{トハ}者、蓋^シ前賓^ノ所^レ任^{スル}也、以^テ耆舊^ノ次第^一任^{スル}之^ニ各^一十

日也、進退^{トハ}者、每^ニ二十日^一之過^{スル}、以^テ衆寮ノ什物^一、渡^ニ次^一ノ之位^ニ、謂^ニ

相進退^一也、寮主^{トハ}者主^ニ衆寮^一之謂也、衆寮什物^{トハ}者、戒臘

牌等之事也、

闔山清衆牌

闔山清衆六百餘員、沙彌喝食二百餘員、永正乙亥

(三七才)

(三七ウ)

今日 堂司某誌

戒臘牌圖 結夏十三日、掛之衆寮

凡僧堂法堂衆寮三所掛_レ之、僧堂_{ニハ}者、維那、法堂者侍香、衆寮者寮元之役也、結夏_ニ掛_レ之也、十三日者衆寮

掛_レ之、十四日者僧堂_ト與_ニ法堂_ニ掛_レ之、戒臘牌_ノ焼香_ノ次第、

一番_ニ頭首、二番_ニ參_ニ暇_ニ西堂、三番_ニ住持、先_ツ法堂_ノ焼香_ヲシテ、

次_ニ僧堂也、住持僧堂_ノ焼香畢_テ、然後往_ニ佛殿_ニ焼香_ヲ、次第

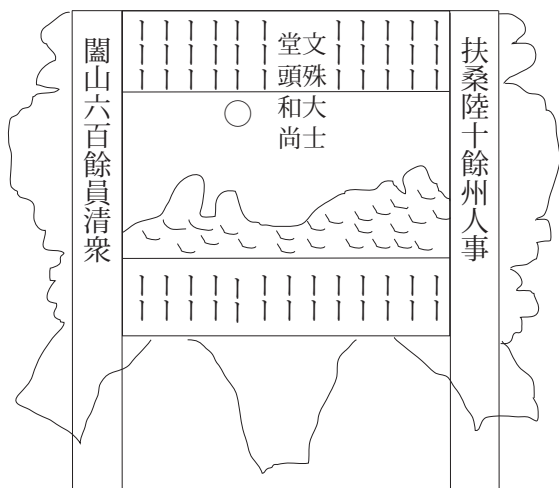
次第_ニ七堂焼香、如_レ常_ノ也、

十三日_{ニハ}、別_{シテ}戒臘牌_ノ焼香ト云テハ無_ソ、衆寮調經ハ

結夏ト解夏ノ兩節ニ有_ルモノソ、

（三八才）

（三八ウ）



(三九才)

- 一 楞嚴會ノ圖者、先ッ四月十二日ニ盛レ之ヲ、至ニ半夏ニ再ヒ盛レ之也、
- 一 夏中者、早晨略「楞嚴咒」也、凡早晨者必有祖堂祠堂
- 一 等之小調經「小調經畢楞嚴會也、」旦望ニハ者上堂畢テ而
- 一 楞嚴會也、
- 一 楞嚴會、旦望ニハ者別ニ有ニ回向、平日ハ者常ノ之楞嚴會ノ回向

也、故旦望^ニ者不^レ掛^ニ楞嚴會ノ回向ノ牌^ヲ、平日^ハ者掛^ニ之^ヲ於上
下間^ニ者^ノ二枚也、

一 舊者、毎日夏中長老七堂燒香、侍狀侍客侍藥侍香

等之侍者、毎日輪次代^ニ長老^ニ燒香也、^一今者、旦望^ノ只長

老自燒香、不^レ然則只侍香代^ニ長老^ニ燒香耳、

一 十四日早晨 小諷經 石塔諷經

法堂^ト僧堂^ト、戒臘牌燒香<sup>但土地堂
念誦以前</sup> 楞嚴會 榜札

同晚間 土地堂念誦<sup>雨時者殿裏
無借香^礼</sup>

借香謝香之礼子<sup>若雨時、於殿裏有^二
諷經^一、則無借香^礼</sup>

先住持受^テ維那ノ請^ヲ、進^テ燒香、其後東西序受^テ維那ノ請^ヲ、相

共^ニ至^ニ住持ノ前^ニ問訊^ヲ、收^テ其^ノ問訊^ヲ至^ニ爐邊^ニ、以^ニ住持香合^ノ之

香^ヲ燒香、相並^テ問訊、不^レ收^ニ其^ノ問訊^ヲ、直^ニ往^ニ住持ノ前^ニ問訊、然^レ

後^ニ歸^レ位、聞^ニ行者ノ叫^ヲ列拜^ト、不^レ離^レ位^ヲ、而展^ニ坐具^ニ向^ニ眞前^ニ而

礼拜、^一若於^ニ鎮守ノ前^ニ則無^ニ列拜^ニ也、

小參ノ時^ニ用^レ之

目子ノ書^キ樣^ハ、引合^ヲ横^ニ折^テ、二枚接^ツレ^テ之、折本^ニ渡^ス侍香^ニ者
也、

瑞雪座元

花溪座元

（三九ウ）

（四〇オ）

諸位座^三元

淙^一首座

丹^一首座

諸位首座

仙^一藏主

心^一藏司

諸位藏主

如^レ右ノ書^ク者ノ也

大座湯ノ礼子ハ、見^ニヘタリ後ノ秉拂ノ處^ニ、

常樂諷經

大坐湯畢^テ、諸兩班各相^ニ聚^テ于首座寮ノ横ノ廊下^ニ、東序ハ

南、西序ハ北、以^レ東爲^レ首、相向^テ問訊^ノ到^ニ常樂^ニ也、諷經畢^テ

乃歸寮、於^レ寮^ニ待^ニツ小參^ヲ也、不^レ到^ニ僧堂^ニ、

小參^一鼓者一通也、聞^レ鼓^ヲ乃出、不^レ到^ニ正面^ニ自^ニ西ノ口^ニ入

也、與^ニ上堂^ニ異也、於^ニ後門^ニ有^ニ謝語ノ礼^一也、

次^ニ湯礼^一

^{茶堂ノ礼子ハ、見^ニテ冬節ノ處^ニ}

法堂ノ習^一上下ノ寮相雜^テ倡^フ之^ヲ、此時ハ者各自^ニ出^ニ禪客^ヲ不^ニ

互換^セ也、燭者自^ニ寮寮^ニ支配^ス出^レ之^ヲ、聖僧侍者ハ乃當日之

侍者也、

歸寮^一頭首入^テ居湯^ニ、緩^ニヘテ全身^一、欲^ス其健^一、此夕敷^レ席^ヲ安眠、

(四〇ウ)

(四一才)

十五日粥僧堂詳于冬節之處 祝聖 土地堂諷經 祖

師堂諷經 法堂祠堂 茶礼 常樂諷經同 祠堂

榜礼 草飯 上堂 節礼法堂 庫司礼

巡堂僧堂 楞嚴會 日中 茶礼僧堂 借法座

佛殿後門、有三板、則後板以下不預之 杖拂同 湯礼 丈室礼

侍香寮礼 塔頭習 藥煎物 秉拂 茶堂湯礼

一 揖坐揖香之事、點燭後テ、先於中央香臺之前問訊、

自香臺右邊進、到本尊前燒香、然袖中收香合一、自香

臺左邊退、於中央燒香、退ハカリ三步許、問訊去ル也、

十六日 謝上堂於後門有謝語礼、小門而退去 同晚間者開

山宿忌

十七日 上代者、夏中每月十七日開山法堂、半齋

者齋了也、今者依三大衆少、楞嚴會過而即半齋也、

六月

一日 打扇者自半夏行レ之、正面五人、東西各一人、

都合七人也、故夏中者佛殿沙喝一間四人立レ之、平

生者一間五人也、自今晚定來日打扇、舊者放參モ亦

有打扇、淋汗風呂

六月十八日、妙雲閣懺法シヤ、差定者、只如每月方丈、

（四一ウ）

（四二オ）

懺法ノ也、前一日堂司持ニ差定ニ報レ之、鉦鼓等之役者於ニ當場ニ定ム之、差定十人之外ハ者、大衆雖レ不レ及レ報レ之皆赴焉耳、舊ハ者自ニ都寺寮ニ點レ茶ヲ、今ハ者依レ無ニ都寺ニ、自ニ維那寮ニ辨レ之、茶ノ之給仕者皆行者衆也、雖レ無レ下レ命各來給仕也、山門莊嚴者、山門ノ承事可レ調フ之也、」總ソ毎月十八日懺法ノ差定、先ッ早晨ニ火德ノ諷經ノ時、火德之前ノ柱ニ、掛ル差定ノ牌一也、」妙雲閣懺法ノ時ハ者、函丈之字ノ上ニ貼ル紙一、書ニル妙雲閣一也、

七月

七夕、方丈冷麵ノ儀式

前四日請客頭廻レス報ヲ、侍衣者爲ニ諸老ノ自往ニ報ス之、豎紙ノ報也、座元者書ニ道號ヲ、自餘者雙字名書レ之、侍衣ノ拜請也、坐牌四首出頭、耆舊次第懸盛也、大衆者臂ニ搭ニ袈裟ヲ、入ニル座敷ニ時、侍香搭ニ袈裟ヲ、立ニ唐戸左邊ニ接ス之ヲ、坐定而侍香如レ恒ノ燒香、點燭亦如レ恒也、燒香畢マ、侍香出ニ、縁外ニ脱ニ袈裟ヲ掛レ臂ニ問ニ訊ノ于住持ニ就ク座ニ也、初臨レ期ニ時行者擊ニ東廊之鼓ニ四下矣、給仕ハ者沙喝也、大衆散時、住持立ニ中門之左邊ニ門送、侍者隨フ其後ニ如レ恒ノ也、

(四二ウ)

(四三オ)

來星節就

函丈煎茶

侍衣某拜請

（道号）
一一座元 謹奉 一一座元

（双字名）
一一首座 謹奉

一一藏司

給仕

一一沙彌 一一沙彌

一一喝食

七月看經ノ勝

一
自ニ七月一日、出シ之ヲ僧堂ニ、横ニ開テ置テ外僧堂ノ南ノ床ノ上ニ、
解夏 七月十三日、齋退楞嚴會ノ滿散、臨レテ期ニ鳴ニ大鐘

并堂前ノ鐘及殿鐘ヲ、維那持ニ大香合一、燒香如シ常ノ、燒香畢テ、
立ニ華瓶ノ下ニ、出班燒香、無ニ列拜ニ故、諸東堂并參暇西堂、

亦不レ立ニ尋常列拜ノ圖ニ、只頭首ノ末ニ相並テ立ッ、行者モ亦不レ報セ

列拜ノ圖ニ御立ト、衆集ル時行者鳴ス鉢ヲ、維那自ニ華瓶ノ下ニ往ニ爐

邊ニ、一步進テ先ッ請ニ住持ヲ、住持燒香侍香持ニ香合一、從レ之ニ、次ニ

請ニ諸東堂一、次ニ請ニ參暇ノ西堂ニ、次ニ東序、次ニ西序、兩序ノ燒香

（四三ウ）

(四四才)

終^ル時、維那相加^テ燒香、相並^テ問訊^ノ歸^ス舊^ノ位^ニ、鳴^レ聲^ヲ啓請、擧^ニ

楞嚴咒^一、後啓請畢、讀^ム疏^ヲ、讀^ミ疏^ヲ畢^テ、回向、上來文疏云^云其

後鳴^レ聲^ヲ擧^メ消災咒^一、祭^ニ經馬及^ヒ疏^ヲ於^レ佛殿^ノ前^ニ、都寺捨^ル「茶

湯^一、如^シ常^ノ、行事畢、衆散時、維那詣^メ方丈^ニ致^ス滿散^ノ礼^一也、

晚間衆寮諷經

礼子別記之
見結夏處

七月十四日 自^ニ早晨^ニ下間^ニ掛^ニ點湯^ノ牌^ヲ、晚間掛^ニ念

誦并小參^ノ牌^ヲ、念誦^ノ牌^ノ肩^ニ貼^ス土地^ノ昭牌^一、今日湯^ハ者都寺^ノ

所^レ點也、都寺往^ニ三丈^ト與^ニ首座寮^一有^ニ榜^ノ礼^一、榜^ノ礼^ハ別^ニ記^レ之^ヲ、

云

晚間土地堂念誦、次^ニ大坐湯、次^ニ常樂諷經、次施餓鬼、

次小參、小參畢^テ、於^ニ後門^ニ諸兩班西堂有^ニ謝語^ノ礼^一、自^レ其

直^ニ到^ニ茶堂^ニ茶礼、礼子如^シ常^ノ也、

十四日、施餓鬼^ノ疏^ニ者、入^ニ住持及都寺^ノ名^一、十五日施餓

鬼^ノ疏^ニ者、但入^ニ都寺^ノ名^一、不入^ニ住持^ノ名^一也、

施餓鬼^ノ疏^ニハ、印ヲツカヌゾ、

同十五日 早晨於^ニ僧堂^ニ粥、次^ニ透^ニ置路^ヲ自^ニ正面^ニ入^ニ佛

殿^ニ祝聖、無^シ粥^ノ諷經^一、次土地堂諷經、大悲咒
消災咒次^ニ祖堂諷

經^一、次^ニ往^ニ法堂^ニ祠堂諷經^一、大悲咒次到^ニ茶堂^ニ茶礼、礼

子如^シ常^ノ、次^ニ常樂諷經、諷經畢^テ、於^ニ光明峯殿前^ニ諷經、

悲大

(四四ウ)

咒
自^レ其侍客往^{ニテ}首座寮^ニ有^二榜ノ礼^一、今日ノ茶者住持ノ所^レ點^{スル}
也、故侍客代^ニ住持^ニ持^レ榜^ヲ到^ニ首座寮^ニ也、今日ノ茶以^{ニテ}首座^一
爲^ニ特爲^一也、

（四五才）

齋了上堂、上堂畢、節ノ礼、^{節ノ礼ハ別ニ}次ニ庫司ノ礼、次ニ巡堂、次ニ
日中、日中畢、往^{ニテ}僧堂^ニ茶礼、^{茶礼ノ礼子ハ別記之}然、晚間大施餓
鬼也、此ノ日僧堂ノ上間ニ掛ニ巡堂ノ牌^一、下間ニ掛ニ點茶ノ牌^一、

東福寺施餓鬼牌
^{大幡、兩疏合、厚紙五百枚也、}
^{頭不^レ書^ニ佛法僧三字、摩達撥^ニ}
^{レ口ヲ}不加

闍山梵侶七世父母 本寺前亡後化僧行童僕
會上三寶聖衆一一等品之位、四趣群類各各同分之位
十方檀信各旅怨親 逐年戰場横死无主孤魂

三聖寺施餓鬼牌
^{大幡、頭ニ無^ニ佛法僧三字、}
^{性悔和尚語也、筆亦性悔和}
^也尚

（四五ウ）

三世十方塵類、諸佛菩薩、一切聖賢
此土他方、有主無主魂魄
依草附木、順緣逆緣衆生

南禪之衆、於^二四條坊橋上、設^二水陸會^一、其牌^三云、
他界此界一切亡靈

相國水陸之牌云、四條橋ノ上

三界萬靈十方至聖

建仁牌云 於^二五條橋、設^二水陸會^一、

盡法界沒亡靈

東福牌云 四條橋上、

前亡後沒、各各幽靈

萬壽牌云 第五橋

河沙餓鬼、各各幽靈

大永七年丁亥、二月十三日、於^二川勝寺^一合戰、戰

死^レ可^レ數、同三月七日、東福寺一山之衆、於^二彼

戰場^一追弔、施食牌云、

時住持^ハ芳卿和尚也、特請^ニ永明^一禪心座元^一爲^ニ維那^一

戰場依草附木精靈、法界有主無主魂魄

右^ハ芳卿和尚之文也、

九月

十七日 普門寺開山忌

報^ハ杉原一枚、横^ニ折書^ク十五日廻^ル

イツモノ十七日ノ開山ノ渡^リ諷經過^テ、別^ニ又鐘ヲ撞^キ出^テ、待^ニ諸老^一

也、諸老集^{マル}時、塔主^ハ客殿ノ正面ノ南ノ方^ニ北^ヘ向^テ立^テ、從^ニ時ノ上方^一

(四六才)

(四六ウ)

位次第ニ接入スル也、接入過^{キテ}、先ツ取^テニ坐牌^ヲ各^ノ立班也、立班ハ獨位之故^ニ、上方ニカマワズ、位次第ニ立班スル也、焼香^ハ塔主ノスル也、九拜アリ、一番ニ焼香三拜^々、不^レ摺^マニ坐具^ヲ、二番ニ焼香^ノ献^レ湯^ヲ次ニ献^レ飯^ヲサテ歸^レ位^ニ三拜^々、不^レ摺^マニ坐具^ヲ、三番ニ焼香^ノ献^レ茶^ヲ次ニ献^レ下^ノ嚙^ヲ歸^レ位^ニ三拜^々、摺^{シテ}ニ坐具^ヲ、我^カ位ニ立班スル時^ニ、鳴^レス^ハ磬^ヲ三下^々、維那始^ニ半齋^ヲ、維那坐具^ヲ挟^ミ手^ニ、請^ニスル上方ノ行道^ヲ也、上方出^テ、次ニ問訊^ノ引^ニ行導^ヲ也、

（四七才）

上方^ト、塔主^ト、維那^ト、頭首^ト、道具、其外ハ布衣七條也、半齋過^{キテ}、除^テ塔主^ヲ、其外ノ諸老、位次第ニ有^ニ焼香三拜^ニ、塔主ハ縁ノ南ノ方^ニ、向^レ北ニ接入スル也、各就^テ座^ニ、有^ニ塔主ノ揖坐揖香^ニ、塔主ノ坐牌^ハ、モリヲトシ也、四首頭敷^ニ坐^ニ、
十月^トハ祈禱常樂ニテアリ、觀音經ノ時、焼香三拜也、其マ、立^テ、滿散ノ焼香スル也、滿散ハ坐^ノ其マ^々也、後ニ散^リ鈴^ノ時焼香、如^レ常^ノ、

（四七ウ）

一 達磨ノ疏銘^ヲ、自^ニ維那^ニ取^也、
四五日以前
取^レ銘^ヲ也

又住持ノ自^リ達磨^ニ幾世^ト云^フヲ、自^リ維那^ニ問^テ、書^キ入^ル物也、某^ハ、自^ニ達磨^ニ二十九世也、
十月ニナラハ、一日二日ノ間^ニ、自^リ達磨^ニ開山忌并冬節マデ

ノ兩班ヲ、以テ客頭一差也、有ニ秉拂スル前板一、差ニ却來ノ後堂ニ也、又秉拂スル後板アラハ、可レ差ニ却來ノ前堂ヲ、却來ハ祖惡迄也、無ナ又侍香、侍狀、侍客、侍衣、侍藥ノ五位ノ侍者ヲ、可レ差ス也、達磨忌ヨリ、冬節迄ト、理ハリヲ云テ履^{ヤト}也、十月十五日ノ望ニモ、某役者ハ立也、

(四八才)

一 十月四日 達磨忌ノ宿忌 住持ハ道具平衣ニ、入ニ佛殿ニ、後

門ニテ普菴ニ焼香、次ニ土地、次ニ三尊、先ツ東ヲメ、次ニ本尊ヲメ、次ニ西ヲシテ、トヲリ、往ニ達磨ノ前ヘ、達磨ノ昇^キ出^シテ置也、中央ニテ脱レ帽ヲ、小間訊^ノ焼香ヲ、承^{ウケ}茶^ヲ供シ、又供^レ湯ヲ、又焼香ヲ歸^レハ位ニ、維那唱ニ大悲咒一、即^チ不^レ焼^レ香ヲ、三拜了^テ、著^レ帽ヲ東ノ方ヘ立^チ倚^リテ、達磨ヲ透^トス也、一ニ挑燈、
人ニ二鉢、人ニ三鼓、人ニ四達磨、次ニ兩班、次ニ住持、次ニ諸老大衆、各^ノ問訊^ノ供^{トモ}スル也、如ニ達磨ノ住持ハ自^リ法堂^ヲ面^ヲ入也、餘ノ諸老ハ、自^レ法堂ノ西ノ口ニ入^レ内ニ也、住持ハ自^レ正面ニ入^テ與^ニ點供ニ間ホド間ヲ置^テ立也、維那爲^メニ點供ノ、手ニ挟^ミ坐具ヲ來^テ請^ス住持ヲ、次ニ兩頭首、次兩參暇、次都寺ヲ請^ス也、行者二人撞^キ出^ス鉢一、時、各^ノ分^テ立^ッ位ニ也、立樣ハ見^ヘタリ于次ニ、

(四八ウ)

梵字 梵字 梵字 梵字

カシラ
頭參暇

點供

シモ
下參暇

梵字 梵字 梵字 梵字

點供終、各^{ハテ}立班^{スル}時^ニ住持中央立班^ス、九拜也、

一ニ上香三拜^{燒香三拜ノ事也}、一ニ上茶三拜^{打西ノ鼓^ウ也}、

此^{コト}時^ニ不^レ摺^シ坐具^ヲ、三三^ニ揖^シ而^テ三拜^ス、^{此^{コト}で、摺^シ坐具^ヲ、}時^ニ打^テ磬^ヲ、唱^シ楞

嚴咒^一也、散鈴ノ時、燒香三拜也、回向^ス了^ル歸也、餘ノ諸老^ハ、有^ニ

燒香三拜^一、

五日 韋駄天諷經 次^ニ日中^{尊勝陀羅尼三遍} 次^ニ祖

師堂^{大悲咒一遍} 法堂ノ西ノ祠堂^{大悲咒一遍} 獻粥^{楞嚴咒一遍}

也 半齋^{齋了} 住持^ハ道具^ニ著^ケ法衣^ヲ、著^キ二帽子^一ヲ、平衣ヲ聽

叫^カ手^ニ掛^ケサセテ出也、大香合^ニ入^一燒香^ト瓣香^一也、サテ從^ニ後

門^一入^ニ法堂^一、中央^ニ脱^シ帽子^ヲ、小問訊^ノ十八拜也、

一ニ上香三拜^{不^レ摺^シ坐具^ヲ}、二ニ上湯上食三拜^{湯藥^カハ^レ湯^ヲ持^テ上^リスル也}、

ス^ハタルヲ見^ス、三三^ニ下^リ嚙^シ三拜^{是^モス^ハタヲ見^テ、三拜也}、四ニ

上香三拜^{不^レ摺^シ坐具^ヲ}、五ニ上茶三拜^{不^レ摺^シ坐具^ヲ也、○侍衣西^ヘ廻^リテ取^テ持^テ}

（四九才）

（四九ウ）

ル也、スユ　六ニ揖ノ而三拜^{坐具ヲ摺ミ}、老弱立班スル也、其時ニ住

持普通問訊^{掛ル時}、拈^{掛ル}香^ヲ唱^テ法語^ヲ、法語了^テ、進^テ爐前^ニ立^テ瓣香^ヲ、別^ニ

不^レ燒^レ香^ヲ退^ク、」時ニ堂司報スル列拜ノ圖一時、住持東ノ柱ノキワへ倚リ、

解^ト法衣^ヲ、渡^{タノ}侍衣^ニ、掛^ケ換^{ヘテ}平衣^ヲ、出^ル中央^ヘ時ニ、維那立^テ東ノ高燭

臺ノ東ノ方^ニ、三步出^テ、請^ニ住持^ヲ、住持進^{シテ}燒^キ香了^テ歸^ル中央^ニ、次^ニ前

住衆、次^ニ兩參暇、次^ニ前板^ト都寺^ト請^{スル}也、次^ニ請^ニ後板^ト、與^ト維那^一

燒香也、イヅレモ先^ツ自^リ東序^一燒香^ヲ也、次^ニ西序^ハ左ノ手^{ニテ}燒^ク者^ノ也、

燒香了^テ、堂擊^ツ鈴^ヲ三^ニ時^ニ、坐具^ヲ各^ク挾^{ハサ}レ^テ手^ニ一^ニ礼^ヲ三^ニ拜^也、住持^ハ

西ノ方ノ頭首^ト、東ノ方ノ都寺^ト、一^ニ礼^ヲ展^テ坐具^ヲ三^ニ拜^{スル}也、三^ニ拜^了テ、住

持著^{ケル}帽子^ニ也、」兩班立班[、]維那淨法界身ノ嘆佛ノ偈ヲ唱^テ、高^ク

唱^テ仰冀慈悲俯垂昭鑑^一、讀^ム疏^ヲ也、讀^ム疏^ヲ時^ニ、住持脱^レ帽展^ニ

坐具^一、右ノ膝^ヲ著^レ地^ニ、堅^タ、左ノ膝^ヲ居^ル時^ニ、侍衣自^リ左ノ方^一出^ス炳香爐^ヲ、

時^ニ自^リ右ノ方^一侍香[、]大香合^ヲ指出^{タス}、炷^{ケハ}香^ヲ、ヤガテ右伏^以ト云時^ニ、

侍衣取^ニ香爐^ヲ、時^ニ摺^ニ坐具^ヲ掛^{ケテ}立班^{スル}也、讀^ミ疏^ヲ終^{ハタ}セハ、ソノマ、擊^{レテ}

磬^ヲ維那始^ニ半齋^ヲ也、散鈴^{チリカネ}時^ニ、有^ニ燒香三^ニ拜^一、」昇^{カキ}下^ヲシテ達磨^ヲ歸^ル

時^ニ、如^ニ前^ニ夕^ノ兩班^先キヤリ、次^ニ著^{レテ}帽^ヲ住持^ハ小問訊^ヲ往^ク也、次

諸老大衆問訊[、]供^ヲスル也、佛殿ノ祖堂^{ニテ}、達磨安坐、

住持燒香[、]承^{レテ}茶^ヲ供^シ、次^ニ承^{ケテ}湯^ヲ供^フ、歸^テ位^ニソノマ、取^ニ出^テ坐具^ヲ、

大悲咒ノ間^ニ三^ニ拜^{シテ}歸^ル也、餘ノ諸老^ハ、燒香三^ニ拜^{スル}也、

(五〇オ)

一 達磨忌ノ疏ミ、印ヲツカズ、

（五〇ウ）

一 十月四五日之比ヨリ、火番ニ云イ付ケテ、掃地ヲ、サスベシ、

一 十月七八日之比ミ、方丈ノ書院之前ノ牆ヲ、住持ノ内衆ニ、云イ付、

一 サスベシ、

一 開山忌ノ報ト、并ニ座牌ノ紙ヲハ、十月五日六日ノ比ロニ、堂^{（司）}處へ、コイニ、ヤ

レバ、堂方參暇へ云テ、引合ヲ十三枚持^チ來^ル也、十日ノ内ミ、急^ヒテ

調也、

東福開山忌

請定^{（狀カ）}ハ、堅^{（紙也、客頭持シ之、}此ハ十月十四日ノ早朝ニ可^{（マ）}シ^{（マ）}廻^{（ス）}、

若^{（シ）}無^{（二）}ク^{（レ）}侍客^{（一）}、書^{（ク）}侍香ノ名^{（一）}也、

來十七日就

函丈小齋

侍司^{（可レ書侍客ノ名）}――拜請

首座 謹奉

都寺

侍者

侍者

――座元

――書記

――侍者

給仕

――沙彌

首座

維那

侍者

――首座

――藏主

侍者

給仕

――喝食

（五一オ）

（五一ウ）

十月開山忌十三日、報^レ、諸老^ハ、塔主道具
卸衣^ニ、口報也、

十月十五日、就^ニ于常樂菴^ニ小齋、

半齋於昭堂有^レ之、各脫帽半齋以後、諸老各有燒
香三拜^一

來十五日就三日以前、前資報^レ之

常樂菴小齋

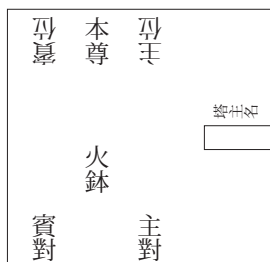
(可^レ書、塔主^ノ名^ヲ)
某拜請 給仕

涅槃座元 伯沙彌

松首座 英喝食

賀藏司

十五日、常樂^ノ坐牌^ノモリ様、
如^レ常也、



十五日、預常樂營齋、半齋^ノ回向^ニ入^ニ塔主^ノ名^一也、
塔主^ノ牌^ハ者^ハ、双坐

字名、上間^ノ大衆^ヲ
未盛^ニ之^ヲ、如^レ常也

半齋^ノ時^ハ、住持^モ常^ニ位^并次第^ニ立也、燒香^ハ塔主也、維那^ハ獨位^ニ、

(五二才)

(五二ウ)

始々、維那請_二當住_一行道、

一 十六日、齋了_ニ、サシ急_トデ、自_二住持_一、客僧一人ト、下衆ハタ

ラク者ノ四人、以上五人出_レ之、方丈ニテ、明日ノ經營ノハタ

ラキ衆也、侍衣_モ齋了ヨリ、往_二方丈_一、借狀ドモヲ書也、

經營非時_ハ方丈へ往_{ユカ}子バ上方_ト侍衣_トノヲ塔頭へ持_{モタ}スル也、

一 十六日ノ晚_ニ、宿忌歸_テ、夜_ル侍衣ニ云_イケテ、坐牌_ヲ盛_テ置也、

一 方丈ノ客殿ノ華_ハ、前_二ニハ無事也_一、近年ノ事也、今_モ住持ノ不_レ知也、

客頭各_レ談合ニテ立也、前_二ニハ立_ル松ノ枝_ヲ也、豎炭并_{タテ}諸式

不_レ知也、

一 十六日ノ夜_ル、方丈ノ客殿ノ夜番_ハ、宵_{ヨイ}火番也、後_ニハ門前ノ大工衆、

一 二人來_テ、番ヲスル也、

一 十七日ノ茶ノ湯_モ、住持ノ不_レ知也、自_二經營ノ方_一スル也、挽_{ヒキ}茶_モ住持ノ

不_レ知也、

一 座敷ノ事_ハ、内座_ハ無價軒ノ西ノ書院バカリ入_ル也、眠藏ノ入口_ト、西ノ

方ノ内書院_ト、此_二ニケ所_ハ不_レ入_ラ也、兩所_ニ住持ノ意安_ク居_テ、拈

香ノ工夫ヲ、スル也

開山忌行事次第

十六日宿忌

一番_ニ常樂 二番_ニ佛殿 三番_ニ法堂_{點供} 次_ニ諷_{九拜}

（五三才）

（五三ウ）

經

十七日 當日行事次第 早晨^ニ佛殿粥ノ諷經

二番^ニ法堂獻粥 三番^ニ常樂 四番^ニ方丈ノ齋

五番^ニ齋退、法堂半齋、^{附十八拜}拈香、出班燒香、

十八拜、獻^ノ茶湯マ、住持^ノ揖^ノ三拜ノ時、鳴^レ鼓四下、於是^ニ

諸東堂、自^リ西ノ床^一出^テ、立班ノ時、拈香

宿忌常樂諷經

(五四才)

臨期^ニ、鳴^ス堂前^ト與^レ常樂之鐘^一マ、住持到^テ常樂^ニ、先^ッ入^テ客殿^ニ、二

十八祖燒香、於^ニ中央^ニ大展三拜、侍香持^ノ香合^一マ、從^レ之^ニ、次^ニ

入^ニ昭堂^ニ燒香、如^レ常、當日ノ諷經、亦礼子如^レ此、

宿忌

諸頭首、并^ニ東序、諸東堂、西堂ハ常樂ノ宿忌了^テ、自^リ通天ノ南ノ

橋^一、西^ヘ往^テ、サテ向^レヒテ南^ニ往^ニ佛殿^ヘ、自^リ佛殿ノ西ノ口^一入^マ、西班ノ立ッ次^ニ

立班^{スル}也、是^ハ東堂西堂ノ立班^{スル}事也、

常樂ノ諷經畢、則鳴^ス堂前ノ鐘^一マ、住持及沙喝^ハ者、自^リ佛殿之

後門^一入、透^ル本尊ノ前^一マ、住持諸堂^一一燒香、如^レ常、到^ル祖師

堂^ニ、諸頭首、并^ニ東序、及諸東堂西堂^ハ者、自^リ西之口^一入^ニ佛

殿^ニ、大衆者自^リ後門^一入^テ佛殿^ニ、透^テ土地堂ノ前^一マ、到^テ正面^ニ、自^リ西

到^レ東^ニ治^ツ壁^一一列^ニ立ッ也、住持燒香畢マ、堂司鳴^ス手磬^一マ時、維

(五四ウ)

那舉^ニ大悲咒^ヲ、大衆同音^ニ誦^ス之^ヲ、回向者通回向也、十方
 三世之聲未^レ畢^ラ、同時^ニ鳴^ニ鈸^ト與^ラ之^ヲ、行者四人安^ニ御影^ヲ於
 兩夾^ニ、昇^レ之^ヲ、自^リ西之口^一、透^ニ西廊^ヲ赴^ニ法堂^ニ也、行者二人、擔^ニ
 挑燈^ヲ前驅、其次^ニ僧四人、鈸^ニ雙、鼓^ニ雙、鳴^レ之前驅、其
 次^ニ御影、其次^ニ都寺維那等、其次^ニ五頭首、其次^ニ住持、其
 次^ニ諸位侍者、其次^ニ沙喝、其次^ニ諸東堂西堂、其次^ニ大衆
 皆合掌^ヲ從^レ之^ニ也、必可^レ脫^ニ帽子^ニ也、御影并住持^ハ者、透^ニ法
 堂^ノ橫廊^下一^ヲ、到^ニ正面^ニ、自^リ中央^ノ口^一入^ル也、東序^ハ者自^リ東^ノ口^一入^リ、
 西序^ハ者自^リ西^ノ口^一入^ル、諸位侍者沙喝^モ、亦自^リ正面^ノ東^ノ口^一入^ル
 也、挑燈及^ヒ鈸鼓役者^ハ、自^リ中央^ノ口^一入^ル也、御影^ヲ昇^レ到^ニ法堂^ヲ
 東^ノ階^下一^ニ也、行者一人手^ニ持^テ御影^ヲ登^ニ法堂^ニ、安^ニスル椅子^ノ上^ニ也、
 安^ニ御影^ヲ畢^ル時、收^ニ鈸鼓^ヲ也、東堂西堂^ハ者、自^リ西^ノ口^一入^ル、先踞^ニ
 長連床^ニ也、大衆者、暫^ク立^ニ西之橫廊^下一^ニ、待^ニ舉經^ヲ也、兩序^ノ
 立班如^レ常^ノ、兩序已^ニ定^ル時、維那進^ニ請^ニ點供^ノ役者^ヲ、諸位侍
 者、分^ニ上下間^ニ、薦^ニ點供^ヲ于法座^ノ上^ニ、點供畢^テ、住持九拜、上
 茶^ノ時、鳴^ニ鼓^ヲ、侍者又自^リ上下間^一薦^ニ茶湯^ヲ於法座^ノ上^ニ、
 住持揖^ニ三拜^ノ時、行者攬^ニ鼓^ヲ端^ニ鳴^レ鼓^ヲ四下、於^レ是^ニ大衆入^ル
 內^ニ、維那舉經也、回向ノ嘆佛ノ偈^ハ者、寶明空海^云、伏願^ノ句^ハ
 者、不捨悲心^云、常樂諷經^モ亦同也、初祖師堂^ノ立班^ノ時、

（五五ウ）

（五五オ）

沙喝ハ者傍^テ佛壇ニ向^レ南ニ以^レ西ヲ爲^レ首ト、一列ニ立也、祖堂ニハ卓ニ掛^ケテ打敷^一、眞前ニ備^ル茶湯^一也、

十七日當日

早晨ニ粥ノ誦經畢^テ、大衆盡ク自^ニ佛殿^一赴^テ法堂^ニ、獻粥誦經、擧^ニ楞嚴咒^一、回向^ハ通回向也、自^レ其赴^テ常樂^ニ誦經、住持ノ礼子^ハ如^シ宿忘^ノ、常樂ノ誦經畢^テ、方丈齋、

方丈齋ノ礼子

坐牌ハ者、列盛也、圖ハ見^ル于下ニ也

侍香脱^テ帽子^一、立^テ唐戸ノ左^ニ東^一、代^ニ住持^一接^ス大衆^一、大衆自^ニ下位^一與^ニ侍香^一問訊^ノ就^レ座^ニ、大衆諸東堂西堂、就^レ座^ニ畢^テ、住持乃入^ニ座敷^ノ内^ニ、先^ッ向^ニ主對^ニ問訊^一、次^ニ向^ニ賓對^ニ問訊^一、向^ニ賓位^一不^ニ問訊^一、賓位^ハ首座ナル^カ故^之也、住持乃問訊^ノ坐^ニ主位^一、於^レ是座敷奉行出^テ、使^ム衆^ヲ取^ラ坐牌^一、取^ニ坐牌^一畢^テ、乃座敷奉行、巡^テ下間^一、引^ク懈怠坐牌^一也、然後命^ニ侍者^一耆舊^ニ點^セシム^一燭^ヲ、於^レ是侍香入^ニ座敷^ノ内^ニ、於^ニ香臺^ノ前^ニ問訊^一、是^レ揖座ノ問訊也、然^ッ後^ニ跪^テ取^ニ中央^ノ大香合^一、挾^ニ之^一左脇下^ニ、自^ニ香臺右邊^一、西^ニ到^ニ眞前^一燒香畢^テ、自^ニ香臺^ノ左邊^一東^ニ退^テ於^ニ中央^一燒香、跪^テ香合^ヲ置^レ地^ニ、如^ク舊^ク起^テ退^ク「三步許^一」問訊^ノ、是^レ揖香ノ問訊也、住持去^テ出^テ、戸外^ニ、引^ニ諸位侍者^一、到^ニ住持^ノ前^ニ相並^テ問訊^ノ、就^レ座^ニ、侍者ノ耆舊進^テ吹^ス滅^ス眞前^ノ燭^一、座敷奉行、乃取^ニ座頭^ノ屏風^一、於^レ是出^ス膳^ヲ、

(五六才)

(五六ウ)

小僧沙喝給仕、如_レ常、大衆散_{スル}時、住持出_テ立_ニ中門ノ左邊_ニ、
方_東門送、諸位侍者、從_ニ其後_ニ也、

齋退法堂平齋ノ礼子

方丈三番座畢_ル時、鳴_ス堂前ノ鐘_一、住持著_テ法衣_一、自_ニ後門_一入_ニ法堂_ニ、諸東堂西堂者、自_ニ西ノ口_一入_テ法堂_ニ、踞_ス長連床_ニ、大衆者暫立_ニ横廊下_ニ也、兩班及參暇_ノ西堂、立班如_レ常、住持先_ニ十八拜_一、諸位侍者、分_テ立_ニ上_一下_一間_ニ、上食上茶湯、薦_ニ之_一法座_ノ上_ニ、上茶_ノ時鳴_ス下間_ノ之鼓_一、十八拜畢_テ、拈香、於_レ是諸東堂西堂、進_テ聽_ニ拈香_一也、大衆ハ猶_ラ居_ス堂外_ニ、拈香畢_ル時、堂司叫_ニ列拜ノ圖_一、住持乃脫_ニ法衣_一、著_ニ平衣_一立班、諸兩班各立班、出班燒香列拜、如_レ常、列拜畢_ル時、大衆入_レ堂_ニ、維那舉_ス楞嚴咒_一、回向畢_ル時、鉞_ト與_レ鼓同時_ニ鳴_レ之、行者二人登_テ法座上_ニ、昇_テ御影_ニ下_一、安_ニ之_一兩夾_ニ、昇_テ赴_ニ佛殿_ニ、挑燈鉞鼓等_ノ之役者、總_テ如_シ前日_ノ也、住持沙喝、東堂西堂、大衆、共一齊_ニ自_ニ西ノ口_一入_ニ佛殿_ニ立班、如_シ前日_ノ也、祖堂_ニ安_シ影畢_ル時、維那鳴_ニ手聲_一、舉_ニ大悲_一、回向者、通回向也、次_ニ東堂西堂衆各_一燒香三拜_ノ退散也、但當住一人、此時不_ニ燒香_一歸也、

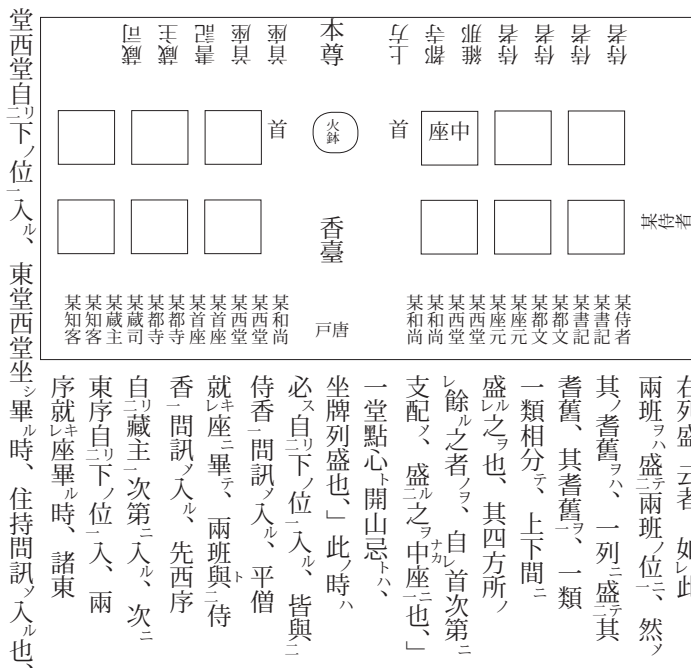
（白紙）

（五七才）

（五七ウ）

（五八才）

坐牌列盛ノ圖 開山忌



(五八ウ)

(五九才)

開山忌法堂ノ莊嚴

法座上立テ、金屏^ヲ、椅子^ニ掛^ク法被^ヲ、椅子ノ前^ニ置^テ机子^ヲ、備^フ鳩備菜^一、法座ノ左右^ニ華瓶^ニ插^ム菊花^一、菊花^ハ者沙喝ノ兩班贈^ル之^ヲ、維那寮^ニ、座下^ニ高机子^一、脚置^テ之^ヲ掛^テ打敷^一、其上置^ク大香爐^一、一箇^ノ耳^ノ、机子ノ左右^ニ置^テ高燭臺^二箇^一、點^ス燭^二挺^一也、

常樂莊嚴 開山忌

客殿掛^ク二十八祖ノ像^一、中央^ハ者佛鑑ノ像也、佛鑑國師并^ニ乃祖、此^ノ三所^ニハ有^リ茶湯^一、用^ニ土器^一也、諸祖ノ前^ニ掛^テ打敷^一、各各置^ク華瓶^一與^ト香爐^一、華瓶香爐者、初午卅三瓶之華瓶用^レ之^ヲ、佛鑑ノ之前、及^ヒ國師ト乃祖トノ前^ニハ、置^ニ鍬赤三具足^一點^ス燭^一、國師^ヲハ必北方^ニ安^ス之^一、乃祖^ヲハ必南方^ニ安^ス之^一、何^ヲ謂^ニ乃祖ト乎、其^ノ時之塔主ノ祖師、謂^ニ之^ヲ乃祖ト耳、喻^ハ如下^ニ三聖門下ノ塔主^一、以^ニ寶覺^一爲^ニ乃祖ト之類^一也、客殿ノ中央^ニハ、敷^テ唐席^一爲^ニ拜席^一也、左右置^テ大鉄燭臺^一各一箇^一也、點^ス燭^一

昭堂 開山忌 凡掛^レ帳七旒 眞前、土地堂、祖師堂、佛鑑、檀那、左右、祠堂 各結^テ平

江帶^ヲ掛^レ之^一、用^ニ鍬^一三具足^一、凡十二飾 眞前一、中央土地一、祖師一、鑑佛一、檀那、左右、祠堂、客殿三 以上十二飾也、鋪^シ之^ヲ氈^一凡五枚、佛鑑^ニ、眞前三、佛鑑一皆階^ニ鋪^シ之^ヲ、佛鑑、檀那、左右ノ祠堂、各備^ニ供具^一、中央置^テ大机子^一掛^テ打敷^一、備^フ供具四十二合、及鳩備菜^一、机子ノ

之四方ニ、置^テ大飯銅各一箇ヲ立^レ花ヲ、二飾之三具足ノ之外、

點^ス燭十二挺^一、土器二箇、陶^{スヘ}ニ之ヲ屈^{グリ}輪ノ臺ニ、備^フ茶湯ヲ、机子ノ左

右ニ、置^テ高燭臺各一箇ヲ、點^ス燭ヲ、又土地祖師兩所相分テ、高

燭臺各一箇、置^レ之ヲ點^ス燭ヲ、釣蠟燭十一挺、釣燈籠ニ點^ス燭ヲ、

諸檀那石塔ノ前机子ニ、掛^ニ打敷ヲ、置^テ燭臺一、點^ス燭ヲ、香爐一箇

置^ク之ヲ、掛字若干、一一不^レ暇^レ記^レ之、相傳眞前ノ金欄帳、鳩

備菜十二箇、銅ノ燭臺ハ者、文溪和尚ノ寄進也、客殿ノ佛鑑ノ

像ハ者、默溪和尚ノ筆也、宿忌^敬ニハ鐘後ニ燭香、廊下ニ點^{スル}燭ヲ、凡^ソ自^ニ

常樂門ニ至^テ通天ニ、每^レ柱點^レ之ヲ、衆僧ハ者昭堂、僕ハ者廊下、各

所^ニ居^ノ護^ス之ヲ、不^レ限^ニ男女凡聖ニ、參詣ノ之者、相競フ^ニ如^レ市ノ、自^リ初

更^ニ至^ニ五更ニ、不^レ止^ル每^毎矣、當寺者準后大夫人之所^レ基

也、不^レ禁^ニ女子^一者、約^{スル}大夫人之本誓^ニ者ノ乎、

開山忌、當日、法堂早晨獻ノ之時ハ者、備^レ粥ヲ、常樂早晨諷

經ノ時ハ者、備^ニ點心^一也、古^ハ者自^リ本寺ニ、爲^メ常樂衆僧ノ贈^ル膳^ヲ者ノ

十膳、今^ハ者略^ソ只贈^ル五膳^一耳、

開山忌齋料

壹斗

上方

五升

平東堂

(六〇才)

(六〇ウ)

三升 西堂_ト座_元維那_ト
 貳升 平僧衆

（六一才）

祖忌微志 _元 齋料 _{トモ} 書 _ラ 也	澄長老 五器	今日 日	東福 納所禪師 松月軒
--	-----------	---------	-------------------

（六一ウ）

一 冬節ノ住持ナラハ、春以來ヨリ、二祖ノ香語_ト、冬節ノ香語、并上
 堂小參ノ法語、其外謝語等ノ工夫、不_レ可_レ有_ニ油斷_一者也、
 十月一日二日ノ間_ニ、差_ス達磨忌ノ兩班_ラ也、冬節ノ頭首、前堂
 後堂アレハ、五位ノ侍者バカリ、却來ノ侍者ニサス也、又冬節ノ
 頭首ナケレハ、却來ノ前堂後堂_ラサス也、又冬節ノ頭首、前堂
 バカリ有テ、後堂ナケレバ、却來ノ後堂_ラサス也、又頭首、後堂
 バカリ有テ、前堂ナケレバ、却來ノ前堂_ラサス也、冬節ニ兩頭首
 トモニナケレバ、自_ニ達磨忌_一冬節マデ、却來ノ前堂後堂、并五
 位ノ侍者_ラサス也、若又冬節_ニ有_ニ一頭首_一時_ハ、差_ス却來ノ首座_ラ
 一人_一也、自_ニ達磨忌_一開山忌マデサス也、冬節ニハ、頭首

〔頭注・重出小異〕

（六二才）

一人ナリ^ハア^レバ、却來ノ首座^ハイ^ラヌ也、

一 十四日^{ニハ}、早朝ニ侍衣道具卸衣ニテ、諸老ヘマワリ、

^{侍衣ニ}口^{ニテ}報^ラニ云也、又大衆ヘノ報^ハ、客頭持^{テハル}廻也、

請狀見^ニ于前^ニ、

諸老ノ名ヲ
書立^テ、渡^ス

〔頭注・重出小異〕

預リ申祠堂錢之事

合壹石者 但内五斗者一メ子、
内二斗、祥雲殿分

右來歲祖忌以前、加枝葉、

可令^{返還}納者也、仍狀如件

慶長五^{子庚}年

小春初十日 聖澄判

常樂菴

免^丁禪師

松月軒

右分^ニ壹斗五升遺之

(六二ウ)

(六三オ)

預リ申祥雲院殿弔料 祠堂之事

合五斗者

忌日以前、加枝葉、可令
右來年八月五日以前、返納

返納者也、仍狀如件
可申者也、仍狀如件、

慶長五年庚子

八月三日 聖澄判

常樂菴

免丁禪師

松月軒

右分ニ升遺之

開山忌宿忌

十六日、方丈ノ經營、非時畢^テ、住持支度^ス、待^ニ兩班^ヲソロヘテ、

前板後板ト維那都寺^ヲ先^{サキ}遣^ヤ、其跡ニ住持、五位ノ侍者沙

喝^ヲ引^キツレ、常樂東序ハ柏心ノ東透^ヲリ、西序ハ柏心ノ西透^ヲリテ、兩班ニ

立也、住持ハ直^ニ上^ス客殿ノ縁^ニ、入^レ座^ニ、脱^レ帽^ヲ聽^ク叫^ニ持^{モテ}テ、北方ノ國

師ノ前^ニ燒香、燒香侍者 持香台次ニ南方ノ塔主ノ乃祖ニ燒香也、次ニ中

央ニ進^テ小間訊^ク、燒香三拜也、於^レ是著^ニ帽子^ヲ、透^ニ柏心ノ東方^ヲ、

（六三ウ）

至^ニ中央^ニ脱^レ帽^ヲ、小問訊^ノ入^ニ眞前^ニ、先^ツ燒香^ヲ、茶、次^ニ供^レ湯^ヲ、又燒香^ヲ出^テ、辨才天^ノ前^ニ燒香、次^ニ祖師堂^ノ燒香、次^ニ無準^ノ燒香、次^ニ檀那^ノ燒香、今^ハ向^テ北^ノ石塔^ニ燒香、前^ニ二^ハ無^ノ事也、至^ニ中尊^ニ國師^ヘ燒香也、散^リ鈴^ヲ時、燒香三拜也、

(六四才)

行道——不^レ著^キ帽子^ヲ也、

常樂之行事畢^テ、著^レ帽^ヲ也、住持之外、諸老^ハ行事畢^テ、有^ニ燒香三拜^一、

一

常樂ノ行事過^テ、兩班^ヲ先^キ立^テ、住持^ニ透^リ柏心^ノ東^ノ方^ニ歸^ル也、自^ニ通

天^ニ法堂^ニ西^ヲ、南^ヘ透^リ、入^ニ佛殿^ノ之後門^ニ、脱^レ帽^ヲ、普菴^ニ燒香^ヲ、次^ニ土地堂^ニ燒香、次^ニ東^ノ彌勒^ノ燒香、次^ニ本尊^ニ燒香、次^ニ西^ノ觀音^ニ燒香、次^ニ祖師堂^ノ開山^ノ前^ヘ往^バ、開山^ヲ卸^レ下^{タヘ}、乘^セ兩夾^ニ、マイラセ、供臺^ニ茶湯^ヲスヘテ置也、住持小問訊^メ、進^ン燒香^ヲ、先^ツ承^ケテ

レ茶^ヲ供^ジ、次^ニ承^レテ湯^ヲ供^{スル}也、サテ燒^レ香^ヲ退^ク時^ニ、打^テ鈴^ヲ、維那始^ニ大悲

咒^ヲ同^シ樣^ニ、住持^ハ取^リ出^シ坐具^ヲ、三拜^ヲ急^ソイテスル也、經^ヲ讀^ミハツルト

同^シ樣^ニ、開山^ヲ昇^キ出也、次第^ハ見^ヘタリ此^ノ下^ニ、

諸^ノ頭首、并東序諸東堂西堂^ハ、常樂^ノ宿忌過^テ、自^リ通天^ノ南^ノ橋^ニ西^ヘ往^キ、自^リ西南^ニ向^{イテ}、往^ニ佛殿^ニ、自^リ佛殿^ノ西^ノ口^ニ入^テ、西班牙^ノ次^ニ東堂西堂^ハ北首^ニ立也

(六四ウ)

一挑燈^ニ右^ニ分^ヲ左^ニ、二^ニ鉞^ニ、二^ニ三^ニ鼓^ニ、二^ニ四^ニ東班^ト西班^ト、五^ニ當住^ニ、六^ニ

一挑燈^ニ右^ニ分^ヲ左^ニ、二^ニ鉞^ニ、二^ニ三^ニ鼓^ニ、二^ニ四^ニ東班^ト西班^ト、五^ニ當住^ニ、六^ニ

一挑燈^ニ右^ニ分^ヲ左^ニ、二^ニ鉞^ニ、二^ニ三^ニ鼓^ニ、二^ニ四^ニ東班^ト西班^ト、五^ニ當住^ニ、六^ニ

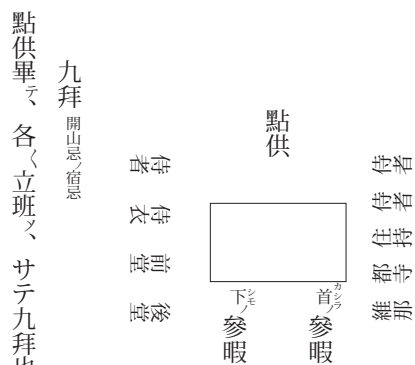
一挑燈^ニ右^ニ分^ヲ左^ニ、二^ニ鉞^ニ、二^ニ三^ニ鼓^ニ、二^ニ四^ニ東班^ト西班^ト、五^ニ當住^ニ、六^ニ

一挑燈^ニ右^ニ分^ヲ左^ニ、二^ニ鉞^ニ、二^ニ三^ニ鼓^ニ、二^ニ四^ニ東班^ト西班^ト、五^ニ當住^ニ、六^ニ

一挑燈^ニ右^ニ分^ヲ左^ニ、二^ニ鉞^ニ、二^ニ三^ニ鼓^ニ、二^ニ四^ニ東班^ト西班^ト、五^ニ當住^ニ、六^ニ

五位ノ侍者沙喝、七ニ前住西堂大衆、位次第二間訊ヲ、供ヲ
 スル也、開山ハ自リ法堂ノ西ニ南ヘ廻リ、自ニ正面ニ入也、東班ハ自ニ
 正面ノ東ノ方ニ入レテ内ニ立也、西班ハ自ニ正面ノ西ノ方ニ入レテ内ニ兩班ニ立
 也、諸老ハ自ニ法堂ノ西ノ口ニ入ル也、住持ハ自ニ正面ニ入レテ内ニ、與ニ點供ノ
 臺一、一間程置レテ間タラ、南ニ立也、維那手ニ挾ミ坐具一、來ニ住持ノ前ニ請ニ
 點供一、次ニ兩頭首、今ノ衆ハ、參暇ノ次ニ
請ニ頭首ノ不審次ニ參暇、次ニ都寺等ヲ請ノ、維
 那歸位ニ時、行者二人撞鉢出時ニ、分レテ立班スル也、立樣ハ見ヘタリ次ニ、

點供ノ立班ノ次第



點供畢、各ノ立班ノ、サテ九拜也、一二上香三拜不レ擧マ
坐具ニ

(六五ウ)

(六五オ)

二上茶三拜不レ摺
ニ坐具 三二揖ノ而三拜畢テ、摺ニ坐具ヲ掛ル時ニ、打テ
レ磬ヲ維那始也、散リ鈴ガ子時ニ燒香三拜、回向了テ、住持ハ其ノマ、
歸也、其餘ノ諸老ハ、有ニ燒香三拜一、

十七日 開山忌

住持支度ヲ赴ニ佛殿ニ、祖師堂諷經、大悲咒三遍也、二遍
目ニ燒香三拜也、次ニ日中也、住持ハ自ニ祖堂諷經一、東
班ヲ先キ立テ、透トヲ佛殿ノ後一、普菴ニ燒香シ、土地堂ニ燒香ス、中央ニ小問
訊ノ、東西ト中央ト燒香スル也、尊勝陀羅尼三遍、觀音經、消災
咒、

(六六オ)

次ニ法堂ニテ獻粥、大衆モ會也、先ツ燒香ヲ、供レ湯ヲ、又供レ茶ヲ、又燒
香ヲ退フ時、維那唱フ楞嚴咒一、散リ鈴ガ子時、燒香三拜、
赴ニ常樂ニ、住持ハ如ニ前夕ニ、客殿ニ北ノ方ノ國師ニ燒香、南ノ方乃祖ニ
燒香ヲ、中央ニテ燒香三拜ヲ、透ニ柏心ノ東ニ行也、昭堂ノ中央ニテ脱レ帽ヲ、
小問訊ノ入ニ眞前ニ、先燒香ヲ供レ湯ヲ、筋ヲナヲシ、供ニ點心一、次ニ供ニ
果子一、次ニ承レ茶ヲ供フ、又燒香問訊ノ出ル也、辨才天ニテ燒香、次ニ祖
師堂、次ニ佛殿、次ニ檀那、次有ニレハ香爐一、石塔ノ前ヘ、其餘ハセズ、次ニ
開山ノ前ニテ燒香也、又散リ鈴ガ子時ニ、燒香三拜也、行事了テ、著ケテ
レ帽ヲ歸也、直ニ於ニ方丈ニ用齋レ也、

(六六ウ)

坐牌

侍

侍

侍

侍

侍

侍

侍

主對

諸御叩留

火鉢

香臺

兩具

賓對

兩具

（六七才）

坐牌ハ主位ト賓位ト二ツニ、分ニケテ位次第一、主位ノ一ノ下ノ位ガ、侍者位ノ下ニ
 坐スル也、又賓位ノ一ノ下ハ、西ノ方ノ後堂首座ノ次ニナヲル様ニ、盛ル也、
 接入ハ、代ニ住持ニ、侍香脱レ帽ヲ、立ニ唐戸ノ東ノ方ノ側ニ、與ニ大衆一問訊
 也、大衆ハ自ニ一ノ下ニナヲル也、平僧衆ナヲリハテハ、次ニ兩班ナ
 ヲル、先ッ自ニ西序ノ下ニナヲリ、次ニ自ニ東序ノ下ニナヲル、次ニ西堂、次ニ
 東堂、自ニ下位ニナヲル、次住持ナヲル時、賓位ハ不ニ問訊セ、而主

對、次ニ賓對ノ兩所ニ問訊、ナヲル也、於是取ニ坐牌ラ也、

侍衣懸ハ掛絡一、出テ、中央へ、坐牌ラ引カスル也、次ニ點シツカニ燭、侍香燒ク

揖坐揖香一也、侍香出テ、小問訊ノ、進シテ、跪ツクツイテイカニモ靜、ツクバオテ、

取テ香合一、挾ミ右脇ニ左手ニ開レ蓋タマ、下ニシキテ、香合ラ右脇ニ挾シテ、立テ透リ (六七ウ)

西ノ方一、燒テ香ラ、透リ東ノ方一、歸テ中央ニ炷テ、ツクバオテ、右ノ手ニテ香合ラ置テ元ト

處ニ、蓋シテ、三步退テ、問訊ノ、出レ縁ニ也、サテ侍香三侍者ラ引

ツレテ、往テ上方ノ前ニ、小問訊、不レ捨テ其ノ問訊、坐ニナヲリサマニ取ニ

坐牌一ナヲル也、次ニ吹キ滅ス燭一也、次ニ坐具之礼畢テ、座敷奉行ガ

取ニ座頭ノ屏風一、出レ膳也、酢大根 煎羅朧 ト子豆

煎昆布 飯 果子三種

門送ハ住持也、唐門ノ内ノ東ノ方ニ立テ問訊也、侍者衆ハ、立ツ住持ノ

後一也、

二番座ノ間、住持ハ、脱キ道具一クツロヒデ、拈香ノ工夫ラスル也、鐘

鳴レ、堂ト與ニ客頭ハズヲ取テ、案内次第、著キ道具一、掛ニ法衣一出ル

也、平衣ラハ、聽叫ニ手ニ掛ケサスル也、環ノ方ラ外ヘナス也、大香

合ニ入ル、燒香ト瓣香ト一也、法堂ノ中央ニ脱レ帽一、小問訊、十八拜

也、

上香三拜、上湯上食三拜、下嚙三拜、此九拜ノ間ミ

而九拜上香三拜、不レ擲上茶三拜、同 揖一三拜、不レ擲

了、擲也

(六八オ)

擲^二坐具^一
而掛^レ也

時^ニ老弱立班^{スル}時^ニ住持普通問訊^ノ拈^二瓣香^一唱^二

香語^一也、香語^了テ、立^ニテ、瓣香^ヲ、別^ニ不^レ柱^レ香^ヲ而退也、サテ堂

司報^{スル}列拜^ノ圖^ト之時、住持^ハ倚^{ヨリ}東^ノ柱^ノ傍^ヘ、脱^ニ法衣^ヲ渡^ニ侍衣^ニ也、

掛^ニ換^ヘテ、平衣^ヲ出^ニ中央^ニ時^ニ、維那立^ニ高卓^ノ東^ノ方^ニ、三步出^テ請^ニ住

持^一也、住持進^ニテ、燒^レ香^ヲ也、次前住衆、東^シ首^ニ法座^ノ西^ノ方^ニ北向^キ

立^ツ請^ノ、各列^ヲ進^ニテ、燒^レ香^ヲ退也、次^ニ參暇、法堂^ノ住持^ノ立^ツ準^ノ西^ニ

東^首兩參暇立^ツ請^レ之、燒^レ香^ヲ退也、參暇^ハ自^リ頭首^ニ西^ニ立也、

次^ニ都寺^ト前板^ト請^{スル}也、都寺^{ヨリ}燒^レ香^ヲ也、次^ニ頭首^ニ燒^レ香^ヲ退^ク、次^ニ

請^ニ後板^一、與^ニ維那^一燒^レ香^ヲ也、先^ツ自^リ維那^ニ燒^レテ、次^ニ後板^ニ燒^レ退^ク時^ニ、

堂打^ニ鈴^ヲ三^ツ時、住持^ハ坐具^ヲ挾^ミ手^ニ、與^ニ前板^一問訊^シ、又與^ニ都寺^一

問訊^ノ展^ニ坐具^ヲ三^拜也、坐具^ヲ摺^ミ掛^ル時^ニ鳴^シ磬^ヲ、維那唱^フ楞嚴

咒^一、散^ニ鈴^ヲ時、燒^レ香^ヲ三^拜也、回向^了ル時^ニ、開山^ヲ昇^キ出^ス、時^ニ

住持^ハ倚^リ東^ノ柱^ノ傍^ヘ居^ル也、

一挑燈^ニ二二鉢^ニ三三鼓^ニ次^ニ東班^ト西班^ト次^ニ

住持次^ニ諸老大衆、問訊^ノ供^{スル}也、入^ニ佛殿^ニ安坐^ス

後^ニ、兩班立^ツ、時住持小問訊^ノ、進^ニ燒^レ香^ヲ、供^ニ茶^ト湯^ト退^ク時^ニ、維那

唱^フ大悲咒^一、住持不^ニ燒^レ香^ヲ急^イテ三^拜也、住持^ハ其^マ、歸也、

自^ニ餘^ノ諸老^ハ、有^ニ燒^レ香^ヲ三^拜一、

一、借^ニ方丈^ヲ畫^ス時^ニ、借^モ狀^モ住持^ハ不^レ知也、行事歸^リニ、畫^ヲトリヲク

（六八ウ）

（六九オ）

時ニ、晝^ラ入^レ箱ニ、付^ニ侍衣之符^一也、
客殿トリヲク事ハ、客頭ノ役也、

一
十八日、懺法ノ非時ノ用意、可^ニ申付^一也、今^ハ無^レ之也、古^モ是ハ
無^イ事也、

(六九ウ)